

2019年度文部科学省委託「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」  
認定動物看護師養成における効果的な連携事業を行うためのガイドライン作成事業

「専修学校版デュアル教育」

# 認定動物看護師分野実習ガイドライン

---

一般社団法人 全国動物教育協会

## 目 次

|   |           |
|---|-----------|
| <b>1. 認定動物看護師分野における「専修学校版デュアル教育」の概要</b> | <b>2</b>  |
| 1.1 認定動物看護師分野における専修学校教育の課題              | 2         |
| 1.2 本ガイドラインの趣旨・目的                       | 3         |
| 1.3 本ガイドラインの適応範囲                        | 3         |
| <b>2. 本ガイドラインが定めるデュアル教育の要点</b>          | <b>4</b>  |
| 2.1 デュアル教育の定義と教育目標                      | 4         |
| 2.2 デュアル教育の特徴・基本方針                      | 6         |
| 2.2 ① 教育の実施主体、及び対象となる学習者                |           |
| 2.2 ② 従来の教育手法・内容との違い、及び解決・改善が見込まれる教育課題  |           |
| 2.2 ③ デュアル教育に関わる各プレイヤーの役割とメリット          |           |
| 2.3 標準的なカリキュラムモデル                       | 9         |
| <b>3. デュアル教育の具体的な内容、及び構築方法</b>          | <b>12</b> |
| 3.1 デュアル教育の準備～実施～評価・改善フロー               | 12        |
| 3.2 デュアル教育の企画（Plan）                     | 14        |
| 3.3 デュアル教育の実施（Do）                       | 26        |
| 3.4 デュアル教育の評価（See）                      | 43        |
| <b>4. 教育支援ツール</b>                       | <b>45</b> |
| 4.1 動物看護総合実習 目的・目標一覧表                   | 45        |
| 4.2 カリキュラムツリー                           |           |
| 4.3 動物看護総合実習 学習工程チャート図                  |           |
| 4.4 動物看護総合実習提案書                         | 46        |
| 4.5 動物看護総合実習申込書                         |           |
| 4.6 動物看護総合実習承諾書                         |           |
| 4.7 動物看護総合実習協定書                         | 47        |
| 4.8 動物看護総合実習誓約書                         |           |
| 4.9 カリキュラムマップ・履修歴チェックシート                |           |
| 4.10 自己分析シート                            | 48        |
| 4.11 ポートフォリオ                            |           |
| 4.12 学生個人表                              | 49        |
| 4.13 ① 動物看護総合実習手引き（学生）                  |           |
| 4.13 ② 動物看護総合実習手引き・指導要領                 | 50        |
| 4.14 動物看護総合実習項目チェックリスト                  |           |
| 4.15 動物看護総合実習自己評価シート                    |           |
| 4.16 動物看護総合実習科目評価シート                    | 51        |
| 4.17 動物看護総合実習学習成果指標【体験型・実務型】            |           |
| 4.18 ① 動物看護総合実習 プログラム評価・改善資料（動物病院）      | 52        |
| 4.18 ② 動物看護総合実習 プログラム評価・改善資料（学生）        |           |
| <b>5. その他の留意事項</b>                      | <b>53</b> |
| <b>6. 【参 考】本ガイドラインの作成プロセス</b>           | <b>55</b> |
| 6.1 【平成29年／2017年度】                      | 55        |
| 6.2 【平成30年／2018年度】                      | 58        |
| 6.3 【令和元年／2019年度】                       | 61        |
| <b>【付 録】教育支援ツール集</b>                    | <b>65</b> |

## 1. 認定動物看護師分野における「専修学校版デュアル教育」の概要

### 1.1 認定動物看護師分野における専修学校教育の課題

現在の認定動物看護師養成では、教育課程の終わりに全国統一の認定試験が実施されている。その受験要件は認定動物看護師教育コアカリキュラム2019（以下：コアカリキュラム）の履修が必修となっており、そのため一般財団法人動物看護師統一認定機構より受験可能校として認定を受けた全国の動物系専修学校68校、及び全国動物保健看護系大学協会の加盟大学8校がコアカリキュラム教育を実施している。現在のコアカリキュラムでは、各科目のコマシラバスも提示され、カリキュラムの平準化として一定の成果が得られており、認定試験を受験するための教育水準の維持についても大きな成果をあげている。

しかしながら、今後の愛玩動物に対する医療の高度化に対応し、チームで行う愛玩動物の医療に貢献するという観点からは、さらなる実践的な能力を高め、その能力の標準化を図ることが、動物看護師養成教育には期待される。具体的に多くの国家試験において、その実践能力を高めるために、企業との連携による企業実習がプログラムとして組み込まれ、受験要件として設定されて、知識や技能を実践・修練する場となっている。

コアカリキュラムの科目構成には、動物病院や企業内での実習「動物看護総合実習」が180時間設定されている。しかし、現状では、実施時期や動物医療系基礎科目との連携、学内実習との接続性などが明確になっていないため、動物病院実習における目的、方法、学習成果・評価について具体的に示し、実習先の動物病院側と実習する学生が十分に理解し、実習効果を確保する必要がある。

講義科目と実習科目との関連性や、学内での実習科目とコアカリキュラム「動物看護総合実習（動物病院実習）」との関連性や目的なども整備されていないため、教育機関の状況と受け入れ側の動物病院の実情により、実習内容や受け入れ期間、評価についても十分な整理がされないまま実施されている。その主な点は、本事業での動物病院を対象にしたアンケート調査からも、動物病院側は求職、或いは求人のための実習という、いわゆる新人動物看護師の採用を目的にしたインターンシップ的な取り組みであり、改めて教育的見地から認定動物看護師を養成するための実習という観点で再整備が必要である。

犬・猫などの愛玩動物は、近年、家族の一員としてかけがえのない存在であり、飼育者の求める愛玩動物に対する医療レベルも高度化し、愛犬・愛猫の長寿化・高齢化などもあり、より適正な愛玩動物の医療やケアサービスなどの提供が望まれている。そのため、動物病院における動物看護師の役割の拡大、質の向上、業務の適正化を図ることを目的に、2019年6月28日、動物看護師の国家資格化を定めた愛玩動物看護師法が公布された。本ガイドラインは新たにスタートする国家資格「愛玩動物看護師」の養成教育にも活用できることを期待している。

## 1.2 本ガイドラインの趣旨・目的

本ガイドラインでは、文部科学省委託事業の認定動物看護師のコンピテンシーディクシヨナリー（認定動物看護師CD）を整理し、この認定動物看護師CDを基準としてコアカリキュラムの「動物看護総合実習」を体系化した。そして、実習の目的・目標を設定し、学習成果指標を明確にしたうえで、実習内容・活動、指導要綱、評価項目を提示し、教育現場及び実習受け入れ先の動物病院において、適切かつ円滑な教育実施を図るものである。

また、実習中だけでなく、実習前後の教育も動物看護総合実習の科目として組み込み、認定動物看護師養成課程における学生の実践力の向上、及び職業観の育成を図ることとした。学生が指導者の指導・助言を受けながら、チームで行う愛玩動物に対する医療の一員として、主体的に動物看護の実践的な学びの場とする事を目的にしている。

## 1.3 本ガイドラインの適応範囲

本ガイドラインで示す適用範囲は、一般財団法人動物看護師統一認定機構が推奨する「認定動物看護師教育コアカリキュラム2019」に科目設定されている「動物看護総合実習」（180時間）である（関連科目との相関関係はカリキュラムマップを参照）。

## 2. 本ガイドラインが定めるデュアル教育の要点

|            |  |  |
|------------|--|--|
| 項目         | 本ガイドラインが定めるデュアル教育の内容   |  |
| 教育分野       | 文化教養分野（認定動物看護師養成）  |  |
| 対象となる学年の年次 | 1. 理解型：1年次前期<br>2. 体験型：1年次課程修了後～2年次前期<br>3. 実務型：体験型実習修了後以降   |  |
| 教育の特徴      | 本ガイドラインで提示するプログラムは、従来、動物系専修学校で実施されていたインターン実習と比較して、就職ではなく認定動物看護師養成の中で、現場での実践的教育を主な目的として構成されており、動物看護実践の学びの場を提供するものである。<br>① 従来の委託実習と異なり、専修学校が動物病院の協力を得て作成する標準的カリキュラムである。<br>② 専修学校での履修段階に応じて、愛玩動物に対する動物病院での実習プログラムを段階的に設定し、学生が主体的に参加し、発展的に学ぶことができるものである。<br>③ 設計されたカリキュラムをもとにして、動物病院の受入体制、学生・学校の実情に応じて、調整可能なものである。 |  |
| 実習内容       | 実施形態   | 企業などの専修学校外での実習   |
|            | 実施時期・期間  | 1. 理解型：1年次前期 16～24時間<br>2. 体験型：1年次課程修了後～2年次前期 40～80時間<br>3. 実務型：体験型実習修了後以降 40～80時間 |
|            | 学生の処遇  | 原則として無償での実施を推奨   |

### 2.1 デュアル教育の定義と教育目標

本ガイドラインにおける「デュアル教育」は、以下のように定義づけるものである。

- 動物看護師を目指し養成機関に入学し、所定カリキュラムを履修している学生を対象とする。
- 2年間の専修学校での学習カリキュラムにおいて履修した内容を、適切な時期に、動物病院で実習の機会を得ることで、学生自身による学習の検証、実習後の学習に発展的につなげる。

本ガイドラインにおける「デュアル教育」の定義として、以下の要素を明示する。

- 認定動物看護師養成における「デュアル教育」は、一般財団法人動物看護師統一認定機構が推奨するコアカリキュラム「動物看護総合実習」であるが、企業内の実習だけでなく、実習前・実習後教育も含めた総合的な教育手法であり、その主体は専修学校である。
- 専修学校は、本プログラムを実践する事で、様々な要件を備えた人材を育成・輩出する。
- スキル要件（理解型）：将来活躍することになる職場を体感することで、環境や関わるスタッフの動きを観察し、専門職としての基本的知識の必要性を理解する。

- 知識要件（理解型）：学習者の仕事に関わる学習や訓練に興味を示すことができる。
- スキル要件（体験型・実務型）：仕事において、組織の倫理やルール、職業倫理を理解し、接続可能な方法を適切に用いる能力を示すことができる。
- 知識要件（体験型・実務型）：一般理論や幅広い知識を獲得し、関連分野の技術・専門職分野のキャリアにつながる専門的な仕事を行うことができる。

このような人材を育成・輩出するための具体的な教育目標は以下の通りである。

→【表2-1】

なお、ここで示す目標は、本プログラムを実践する事で最低限の共通的に育成されるべき知識・スキルを示したものであり、教育主体となる専修学校が教育目標を適時追加・拡大することは可能であり、より積極的な取り組みが求められる。

■ 表2-1 本プログラムにより達成されるべき教育目標

|     | 知識・スキル  | 概要  | 到達水準  |
|-----|---|---|---|
| 理解型 | 知識と理解<br>汎用的技能<br>自律性と責任感<br>倫理観とプロ意識                   | 動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等）を理解する。<br>動物病院内で動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解する。<br>学内でのカリキュラム、各教科と実際の業務との関連を知ること、必要性や目的を理解し意欲の向上を図る。  | オリエンテーションを受け、動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。<br>獣医師・動物看護師の業務内容（役割の違い、一日の流れ等）を把握する。<br>動物病院の施設を見学し、施設の概況や機能を理解する。<br>動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解する。<br>学習者として適切に行動できるように社会常識やマナーを実践する。<br>学内でのカリキュラムや各教科と、実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。      |
| 体験型 | 知識と理解<br>汎用的技能<br>専門実践技能<br>対人技能<br>自律性と責任感<br>倫理観とプロ意識 | 動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等）を理解し、自身が動物病院での就業にどのように加わるかを考える。<br>学校で修得した知識や技術が動物看護業務を実践する上で必須であることを理解する。<br>飼い主対応や処置室などでの臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間関係を築くために必要な技術や能力を修得する。 | オリエンテーションを受け、実習を通して実際の動物看護業務を体験し、その職務内容を理解する。<br>可能な範囲で行う実習項目において、動物看護師としての業務、役割を果たす。<br>チームで行う愛玩動物に対する医療は、獣医師・動物看護師・スタッフ全員がそれぞれの役割を担いつつ、協力し合うことで最善の成果を出せることを理解し、良好なコミュニケーションを構築する。<br>動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など、基本的な事項に |

|     |  |   |  |
|-----|--|---|--|
|     |  |   | <p>ついて理解する。</p> <p>学内でのカリキュラムや各教科と、動物病院における実際の動物看護業務との関連について認識を深める。</p>  |
| 実務型 |  | <p>動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等）を理解し、チームで行う愛玩動物に対する医療を体験する。</p> <p>総合的な動物看護の実務に関わる指導を受け、動物看護師の実務能力を修得する。</p> <p>動物看護師としての役割や責任についての認識を深める。</p> | <p>オリエンテーションを受け、動物看護師として実際に就業することを理解する。</p> <p>指導者の助言を受けながら、動物病院における獣医師との連携のなかで動物看護計画の展開を習得し、動物看護実務を遂行できる能力を養う。</p> <p>動物看護に関する多くの項目についての技術を、可能な限り体験し学習する。</p> <p>動物病院内における動物看護師の役割や、チームで行う愛玩動物に対する医療の機能、行動について考えることができる。</p> <p>動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など、基本的な事項について認識を深める。</p> <p>学内でのカリキュラムや各教科と、動物病院における実際の動物看護業務との関連について十分に把握し、実践に活かす。</p> |

## 2.2 デュアル教育の特徴・基本方針

### 2.2 ① 教育の実施主体、及び対象となる学習者

本ガイドラインに示したデュアル教育の受講者は、専修学校における認定動物看護師養成の学科・コースに在籍し、コアカリキュラムを履修中の学生を想定している。そのうち、理解型実習は1年次前期、体験型実習は1年次後期課程修了者、実務型実習は体験型修了者を想定してプログラムを作成した。 →【表2-2 動物看護総合実習 目的・目標一覧表】

本プログラムは、動物病院の受入体制、学生や学校の実情に応じて調整可能なものである。

■ 表2-2 動物看護総合実習 目的・目標一覧表

|  | 理解型実習   | 体験型実習  | 実務型実習   |
|--|---|--|---|
| 実施年次/時期  | 1年次前期   | 1年次課程修了後～2年次前期   | 2年次体験型実習修了以降  |
| 期間   | 2～3日間程度   | 5～10日間   | 5～10日間  |
| 時間   | 16～24時間   | 40～80時間  | 40～80時間   |
| 目的   | 動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、スタッフの構成等）を理解する。             | 動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、スタッフの構成等）を理解し、自身が動物病院でどのように加わるかを考える。                               | 動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、スタッフ構成等）を理解し、チームで行う愛玩動物に対する医療を体験する。     |
|  | 動物病院内で動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解する。               | 学校で修得した知識や技術が動物看護業務を実践する上で必須であることを理解する。  | 総合的な動物看護の実務に関わる指導を受け、動物看護師の実務能力を修得する。                           |
|  | 学内でのカリキュラム、各教科と実際の業務との関連を知ることで、必要性や目的を理解し、意欲の向上を図る。 | 飼い主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間関係を築くために必要な技術や能力を修得する。                           | 動物看護師としての役割や責任について、認識を深める。                                      |
| 目標   | オリエンテーションを受け、動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。               | オリエンテーションを受け、実習を通して実際の動物看護業務を体験し、その職務内容を理解する。  | オリエンテーションを受け、動物看護師として実際に就業することを理解する。                            |
|  | 獣医師・動物看護師の業務内容（役割の違い、一日の流れ、など）を把握する。                | 可能な範囲で行う実習項目において、動物看護師としての業務、役割を果たす。   | 指導者の助言を受けつつ、動物病院における獣医師との連携のなかで動物看護計画の展開を修得し、動物看護実務を遂行できる能力を養う。 |
|  | 動物病院の施設を見学し、施設の概要や機能を理解する。                          | チームで行う愛玩動物に対する医療は、獣医師・動物看護師・スタッフ全員がそれぞれの役割を担いつつ、協力し合うことで最善の成果を出せることを理解し、良好なコミュニケーションを構築する。 | 動物看護に関する多くの項目についての技術を、可能な限り体験し学習する。                             |
|  | 動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解する。                            |  | 動物病院内における、動物看護師の役割やチームで行う愛玩動物に対する医療の機能、行動、責務について考えることができる。      |
|  | 学習者として適切に行動できるよう、社会常識やマナーを実践する。                     | 動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など基本的な事項について理解する。  | 動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など、基本的な事項についての認識を深める。                     |
| 学内でのカリキュラムや各教科と、動物病院における実際の動物看護業務との関連を知り、必要性を理解する。 | 学内でのカリキュラムや各教科と、動物病院における実際の動物看護業務との関連について、認識を深める。   | 学内でのカリキュラムや各教科と、動物病院における実際の動物看護業務との関連を十分に把握し、実践に活かす。                                       |   |

## 2.2 ② 従来の教育手法・内容との違い、及び解決・改善が見込まれる教育課題

本ガイドラインで提示するプログラムは、従来の専修学校内での実習やインターン実習と比較して、以下の点に特徴を有しており、従来の課題解決・改善につながる。

- 動物看護総合実習の体系化を整備した事で、教育目標・評価指標が明確化できたこと。
- 動物看護総合実習の教育目標・評価指標が明確化できたことで、実習依頼内容が整理できたこと。
- 動物看護総合実習の学習活動工程を作成した事で、学習活動の内容が明確化できたこと。
- 動物看護総合実習の評価指標ができたことで、職域の人事考課に寄与することができるようになったこと。
- 認定動物看護師のコンピテンシーディクショナリーと合わせて活用することで、人材育成面での効果に期待ができたこと。



## 2.2 ③ デュアル教育に関わる各プレイヤーの役割とメリット

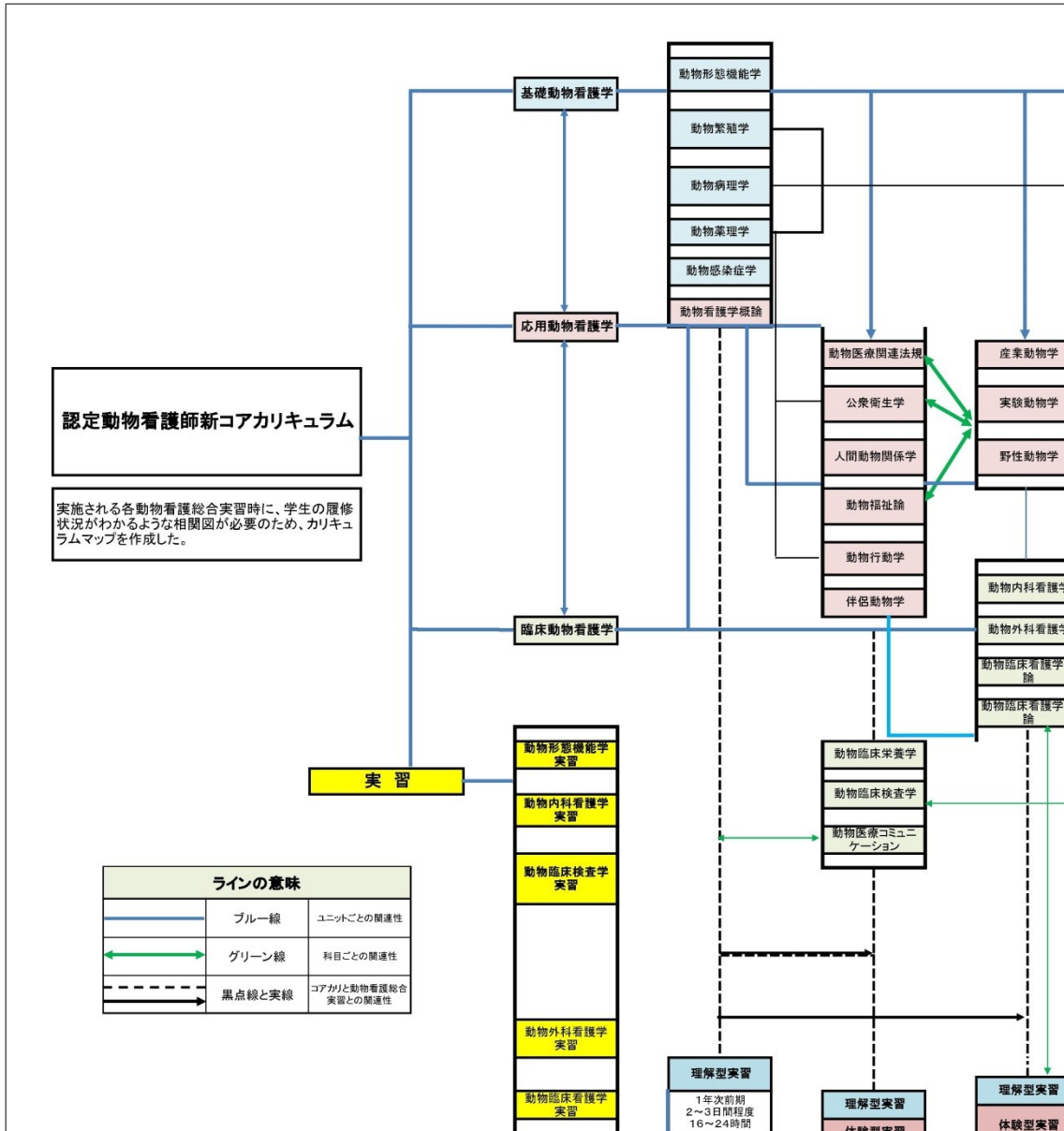
本プログラムに関わるプレイヤーとそれぞれの役割・メリットを整理すると、以下のとおりである。 →【表2-2 ③】

■ 表2-2 ③ 本プログラムに関わるプレイヤーの役割とメリット

| プレイヤー          | 役割  | メリット  |
|----------------|---|---|
| 専修学校           | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 具体的プログラムの作成と全体統括を図る。</li> <li>② プログラムを作成する。</li> <li>③ プログラムを運営する。</li> <li>④ 企業への啓発・理解醸成を図る。</li> <li>⑤ プログラムの改善を行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>① これまでの教育課題を解決・改善できる。</li> <li>② より実践的な教育を提供できる。</li> <li>③ 動物病院業と連携を深めることにより、ニーズが把握できる。</li> <li>④ 教員自身の資質向上が図れる。</li> <li>⑤ 就職率と定着率の向上が望める。</li> </ul>                   |
| 学生<br>(実習生)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>① プログラムによる教育を受講する。</li> <li>② 専修学校での学びが現場でどのように活かしているのかを体験する。</li> <li>③ 事後学習により、以後の学びに対する課題設定を行う。</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>① より実践的で質の高い教育を受講することにより、専門知識・専門技術を習得できる。</li> <li>② 早い段階で、動物看護師としての職責や職業人意識を醸成することができる。</li> <li>③ 就職活動の推進につながる。</li> </ul>   |
| 地域企業<br>(動物病院) | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 専修学校と連携を行い、現場実習の場を提供する。</li> <li>② 現場指導を行うことで、実践的な知識・技能を有する認定動物看護師養成に寄与する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 実践的な知識・技術を習得した学生を育成することで、採用後の即戦力として期待ができる。</li> <li>② 学生への指導スキルを人材育成に再活用することが可能となる。</li> <li>③ 人材の確保につなげることができる。</li> <li>④ 教育機関に対し望ましい教育プログラムの改善を提案することができる。</li> </ul> |

## 2.3 標準的なカリキュラムモデル

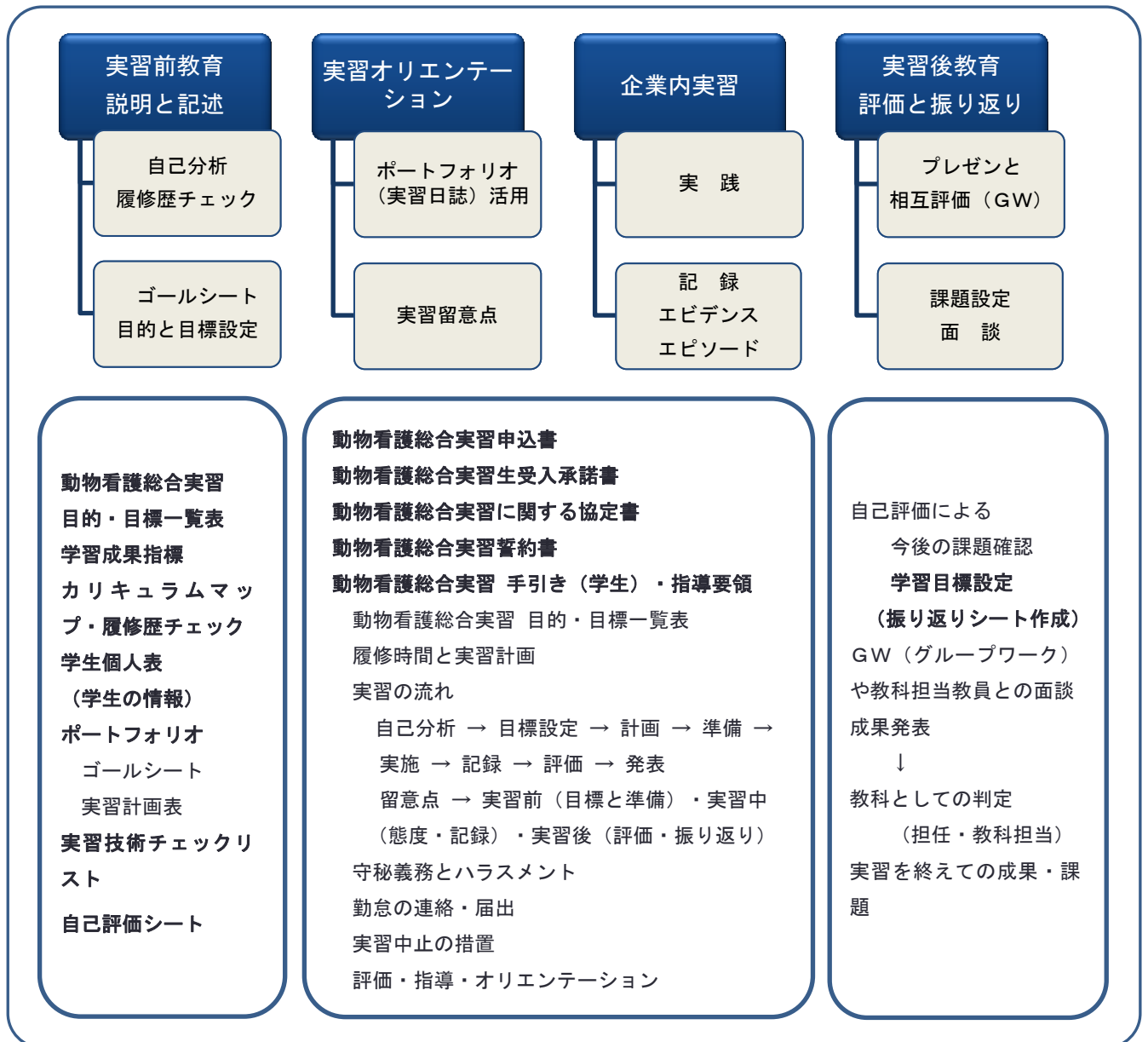
■ 表2-3 標準的なカリキュラム（カリキュラムツリー）から一部抜粋



動物看護総合実習を実施するにあたり、カリキュラムにある各教科で修得した成果が、実習の事前に行う自己分析と事後の到達指標を授業における到達目標と結び付けながら、履修内容が学生自身だけではなく学生の受入企業に対しても可視化できるようにし、教育課程の体系を示すことで学生が学びの目標や全体像を理解できるようにする。

- 本ガイドラインが対象とする各実習（理解型・体験型・実務型）の学習工程は以下のとおりである。 →【表2-4】10ページに掲載
- 本ガイドラインでは、実習中の標準カリキュラムについては、動物病院の規模や組織、診療方針やその形態により様々であることから、学習工程にとどめ、実習の細目については動物病院と相談をしながら決定することとし、またその実習細目については、チェック表にて確認することとした。

■ 表 2-4 動物看護総合実習 学習工程チャート図



### 実習前教育：

1. 学生は学習成果指標の説明を受け、学習目的・目標を把握し、どのような評価を受けるのか理解する。
2. 実習に際する学習の流れや内容を理解する。
3. その上で自己の学習履歴を振り返り、履修科目の習得を確認すると同時に自己分析を行う。
4. 自己分析を基に各個人の実習目的・目標を設定し、成果をあげるための具体的実習計画を立案する。
5. 実習先が決定し実習手続きが完了した時点で、できるだけの前調査を行う。

### オリエンテーション

1. 学生はポートフォリオの記入方法や活用についてレクチャーを受け、記録方法を学び、予備練習を行う。
2. 実習項目チェックリストの記録方法を学ぶ。
3. 実習中の心得・態度・服装などの注意・留意事項について学ぶ。
4. 守秘義務やSNSなどの情報発信について留意しなければならない点を学ぶ。
5. 事故や突発的な事象が起こった場合の対応や連絡方法や保険などの手続きについて学ぶ。

### 実習中

1. 指導者の指示のもと実習を行うと共に、記録を行う。
2. 学校や巡回指導者との連携を欠かさないよう務める。

### 実習後

1. 実習先に対してお礼状を送付する。
2. 振り返りの学習活動として、ポートフォリオの整理を行う。
3. 整理蓄積されたエビデンスやエピソードを基に自己評価を行う。
4. 自己評価を基に担任や科目担当教員との面談やGW（グループワーク）活動などにより、次期課題を設定する。
5. 実習で得た学習成果を発表やレポートにまとめる。

■ 表 2-5 動物看護総合実習項目チェックリストから一部抜粋

動物看護総合実習項目チェックリスト

| 項目  | 技術細目                           | 理解型 |   |      |     | 体験型 |      |  |  |
|-----|--------------------------------|-----|---|------|-----|-----|------|--|--|
|     |                                | 施設名 |   | 学生評価 | 施設名 |     | 学生評価 |  |  |
|     |                                | A   | B |      | A   | B   |      |  |  |
| 環 境 | 場所環境の観察                        |     |   |      |     |     |      |  |  |
|     | 場所環境整備整頓                       |     |   |      |     |     |      |  |  |
|     | 場所環境の衛生的清掃                     |     |   |      |     |     |      |  |  |
|     | 清掃道具の整備                        |     |   |      |     |     |      |  |  |
|     | ケージの衛生的清掃                      |     |   |      |     |     |      |  |  |
|     | ケージ内の敷物交換・整備                   |     |   |      |     |     |      |  |  |
|     | 食事摂取状況の観察(食べ方、摂取方法、摂取量)のアセスメント |     |   |      |     |     |      |  |  |
|     | 栄養状態のアセスメント                    |     |   |      |     |     |      |  |  |
|     | 雷解質のアセスメント(脱水状態の観察)            |     |   |      |     |     |      |  |  |

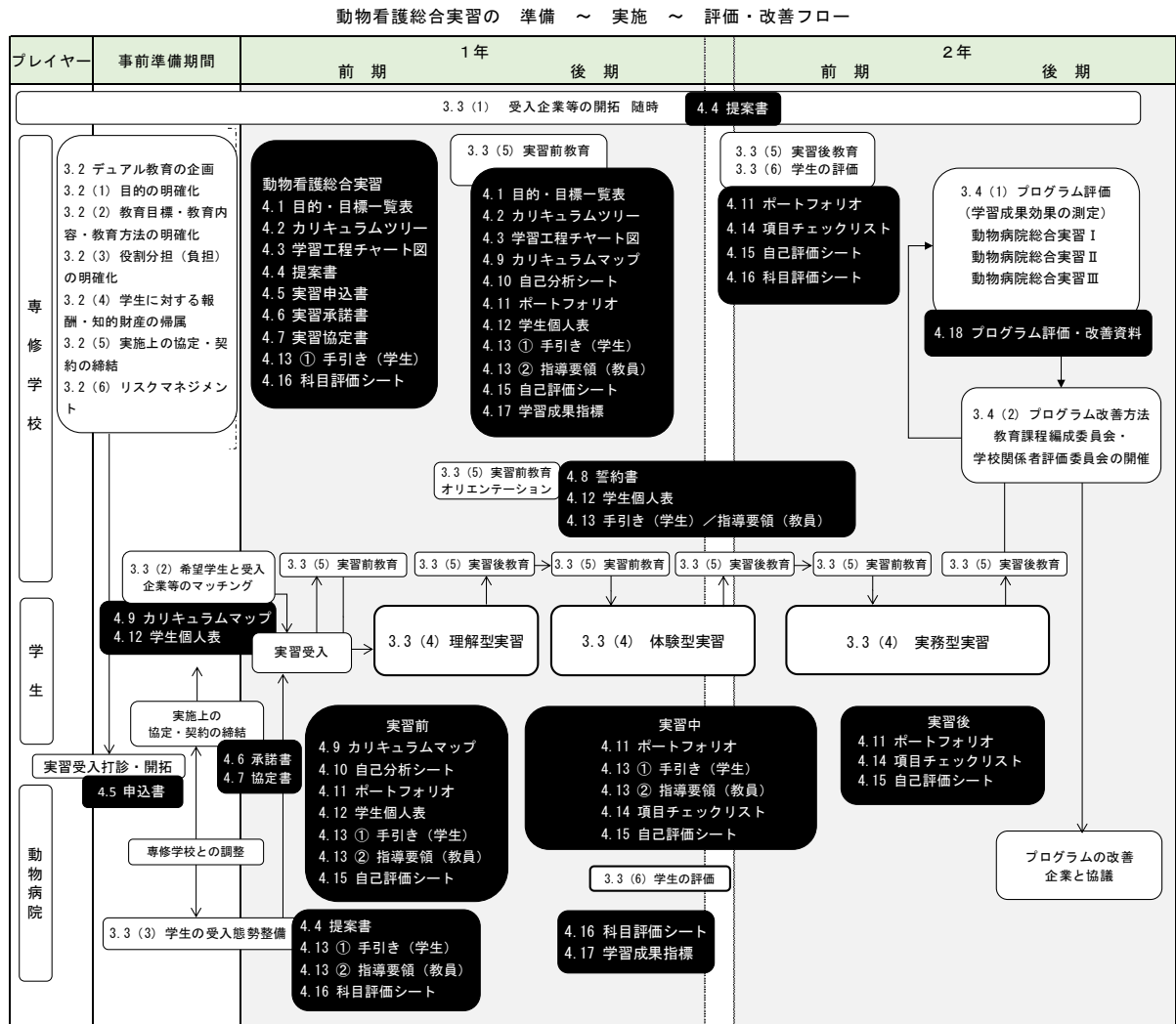
【学生自己評価欄】 ※回数を正の字で記  
A:実施できた B:体験できた C:.

### 3. デュアル教育の具体的な内容、及び構築方法

#### 3.1 デュアル教育の準備～実施～評価・改善フロー

- 本ガイドラインが示す具体的なカリキュラム、及び必要な事項の調整・決定から実施、その後の評価・改善に至る全体フローは、下記に示す。

■ 表3-1 動物看護総合実習フロー



■ 表 3-2 デュアル教育における使用ツールと関連するプレーヤー

| 時 期    | 使用ツール  |                            | 関連するプレーヤー |      |       | 管理者       |
|--------|--------|----------------------------|-----------|------|-------|-----------|
|        |        |                            | 専修学校      | 学生   | 動物病院  |           |
| 準備期間   | 4.1    | 動物看護総合実習 目標・目的一覧表          | プラン作成     |      | 理解    | 専修学校      |
|        | 4.2    | カリキュラムツリー                  | 課程検討      | 活用   | 理解    | 専修学校      |
|        | 4.3    | 動物看護総合実習 学習工程チャート図         | プラン作成     |      | 理解    | 専修学校      |
|        | 4.4    | 動物看護総合実習提案書                | 依頼・開拓     |      | 検討    | 動物病院・専修学校 |
|        | 4.5    | 動物看護総合実習申込書                | 作成・依頼     |      | 承諾    | 動物病院      |
|        | 4.16   | 動物看護総合実習科目評価シート            | 作成・説明     |      | 理解    | 動物病院・専修学校 |
| 実習前    | 4.4    | 動物看護総合実習提案書                | 依頼・開拓     |      | 検討    | 動物病院・専修学校 |
|        | 4.6    | 動物看護総合実習承諾書                | 締結        |      | 承諾    | 動物病院・専修学校 |
|        | 4.7    | 動物看護総合実習協定書                | 締結        |      | 確認    | 動物病院・専修学校 |
|        | 4.13 ① | 動物看護総合実習実習手引き(学生)          |           | 理解   |       | 学生・専修学校   |
|        | 4.13 ② | 動物看護総合実習実習手引き・指導要領         | 指導        |      |       | 学生・専修学校   |
|        | 4.16   | 動物看護総合実習科目評価シート            | 説明        |      | 確認・理解 | 専修学校      |
|        | 4.1    | 動物看護総合実習 目標・目的一覧表          | 学生指導      | 理解   |       | 専修学校      |
|        | 4.2    | カリキュラムツリー                  | 学生指導      | 理解   |       | 専修学校      |
|        | 4.3    | 動物看護総合実習 学習工程チャート図         | 学生指導      | 理解   |       | 専修学校      |
|        | 4.8    | 動物看護総合実習誓約書                | 説明        | 作成   | 受理    | 動物病院      |
|        | 4.9    | カリキュラムマップ・履修歴チェックシート       | 説明        | 履修歴  | 履修歴確認 | 専修学校      |
|        | 4.10   | 自己分析シート                    | 説明        | 作成   |       | 学生        |
|        | 4.11   | ポートフォリオ                    | 学生指導      | 作成   |       | 学生        |
|        | 4.12   | 学生個人表                      | 説明        | 作成   | 準備    | 学生        |
|        | 4.13 ① | 動物看護総合実習実習手引き(学生)          |           | 理解   |       | 学生・専修学校   |
|        | 4.13 ② | 動物看護総合実習実習手引き・指導要領         | 指導        |      |       | 学生・専修学校   |
|        | 4.15   | 動物看護総合実習自己評価シート            | 説明        | 理解   |       | 学生        |
|        | 4.16   | 動物看護総合実習科目評価シート            | 説明・依頼     |      | 理解    | 動物病院・専修学校 |
|        | 4.17   | 動物看護総合実習学習成果指標【体験型・実務型】    | 説明        |      | 理解    | 動物病院・専修学校 |
|        | 実習中    | 4.11                       | ポートフォリオ   |      | 記録    | 確認        |
| 4.13 ① |        | 動物看護総合実習実習手引き(学生)          |           | 活用   |       | 学生        |
| 4.14   |        | 動物看護総合実習項目チェックリスト          |           | 記録   | 確認    | 学生        |
| 4.16   |        | 動物看護総合実習科目評価シート            |           |      | 評価    | 動物病院・専修学校 |
| 4.17   |        | 動物看護総合実習学習成果指標【体験型・実務型】    |           |      | 理解    |           |
| 実習後    | 4.11   | ポートフォリオ                    |           | 記録   | 確認    | 学生        |
|        | 4.15   | 動物看護総合実習自己評価シート            |           | 自己評価 |       | 学生        |
|        | 4.16   | 動物看護総合実習科目評価シート            | 回収        |      | 評価    | 専修学校      |
|        | 4.17   | 動物看護総合実習学習成果指標             |           |      | 評価    | 専修学校      |
| 事業終了後  | 4.18 ① | 動物看護総合実習プログラム評価・改善資料(動物病院) | 課題        | 課題検出 | 改善提案  | 動物病院・専修学校 |
|        | 4.18 ② | 動物看護総合実習プログラム評価・改善資料(学生)   |           |      |       | 学生・専修学校   |

### 3.2 デュアル教育の企画（Plan）

- 本節は、デュアル教育を実際実施するための準備・構築段階に際して、最低限度必要な手続き・要素を体系的に整理する。

#### （1）目的の明確化

本項目で利用する教育支援ツール

- 動物看護総合実習 目的・目標一覧表・・・学修成果と評価について理解を促進。
- カリキュラムツリー・・・動物看護総合実習の教育課程を明確化。
- 動物看護総合実習提案書・・・動物病院に目的や役割・利点を理解させる。
- 動物看護総合実習評価シート・・・実際の指導内容と合わせ、評価の説明を行う。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.1 動物看護総合実習 目的・目標一覧表                           |
| ツールの概要説明   | 3段階に階層化した「動物看護総合実習」の、各階層における実習の目的・目標を明記する。      |
| ツールの構成及び内容 | 「理解型」「体験型」「実務型」それぞれの実習年次・期間（日数）・時間数・目的・目標を明記する。 |
| プレイヤーのかかわり | 学生・専修学校・動物病院                                    |
| 利用方法       | ガイドライン実習の目的理解                                   |
| 留意点        |   |

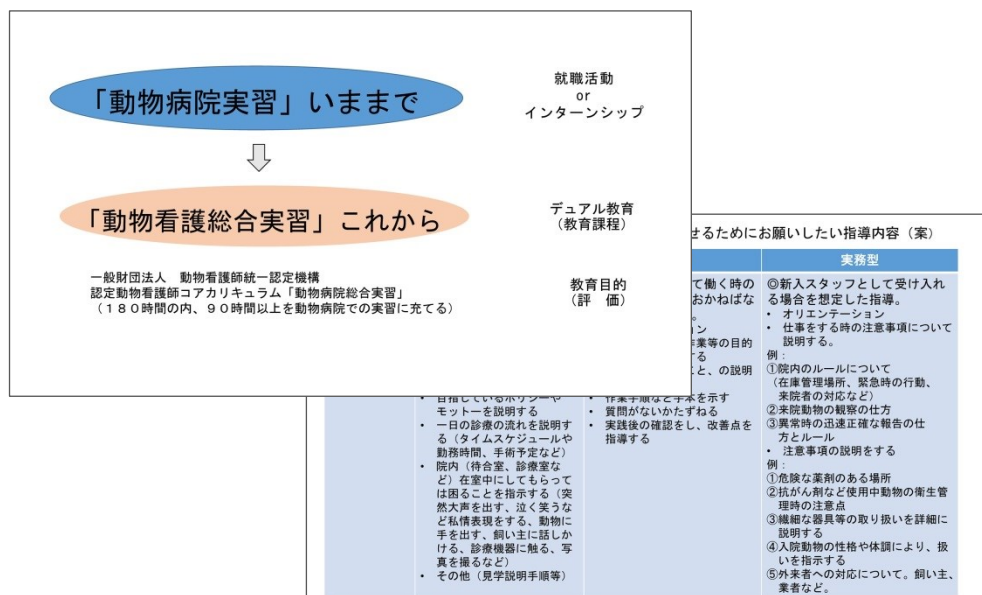
- ▶ 〈4.1 動物看護総合実習 目的・目標一覧表〉は、7ページに掲載の「表2-2 動物看護総合実習 目的・目標一覧表」を参照してください。

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.2 カリキュラムツリー  |
| ツールの概要説明   | コアカリキュラムを基に、どの教科をいつ頃実施するかを示し、全教科と各教科の関連性を示す。                                     |
| ツールの構成及び内容 | コアカリキュラムに基づいて、各教科の実施時期を示し、3段階に階層化した実習の各実施時期までに、履修していることが望ましい教科を把握できるような構成とする。    |
| プレイヤーのかかわり | 学生：学習工程と履修内容を把握する。各自の履修内容が確認できる。<br>動物病院：学生個人の修得度が明らかになり、確認できる。                  |
| 利用方法       | 学生：就学年数全体の履修関係が理解できる。<br>動物病院：学生が履修する科目の全体像が理解できる。現状の学年次で修得している科目と実習との関わりが理解できる。 |
| 留意点        | 各科目の履修時期は各校の教育体制に則し適宜調整する。   |

- ▶ 〈4.2 カリキュラムツリー〉は、9ページに掲載の「表2-3 標準的なカリキュラム（カリキュラムツリー）」を参照してください。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.4 動物看護総合実習提案書   |
| ツールの概要説明   | 実習を開始するにあたり、本実習の目的・目標など全体像を説明し動物病院への実習受入れの協力を提案（依頼）する。        |
| ツールの構成及び内容 | 目的・目標一覧表、学習工程チャート図、実習評価など、動物病院におけるオリエンテーションの参考資料とする。          |
| プレーヤーのかかわり | 専修学校・動物病院   |
| 利用方法       | 実習先の開拓時や、実習受入先動物病院へ実習内容を説明する際に活用する。                           |
| 留意点        | 動物病院に過度な負担感を抱かせないなど、本実習をしつかりと理解してもらえるように説明する。受入れによる利点もアピールする。 |

➡ < 4.4 動物看護総合実習提案書（PP）> から一部抜粋



|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.16 動物看護総合実習科目評価シート  |
| ツールの概要説明   | 動物看護総合実習評価をおこなう。評価要素は、NQF (National Qualifications Framework) から引用する。               |
| ツールの構成及び内容 | 「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能(専門実践技能)(対人技能)(分析技能)(管理・指導技能)」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」を示す。         |
| プレーヤーのかかわり | 動物病院・教員   |
| 利用方法       | 動物病院:「職務上の技能(専門実践技能)(対人技能)(分析技能)(管理・指導技能)」<br>教員:「知識と理解」「汎用的な技能」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」 |
| 留意点        | 基本的に学生には評価のフィードバックは行わない。学生にフィードバックする場合は、動物病院の承諾を取る。                                 |



▶ 〈4.16 動物看護総合実習科目評価シート〉から一部抜粋

| 大目次            |   | 年 月 日   | 日     | 遅刻       | 日 |            |   |                  |  |
|----------------|---|---|-------|----------|---|------------|---|------------------|--|
| 学習成果指標評価項目     |   | 自己評価  | 実習先評価 | 評 価      |   |            |   |                  |  |
| 評価要素           | 評価内容  |   |       | 4        | 3 | 2          | 1 |                  |  |
| 知識と理解          | 動物病院の概要理解や動物看護師の業務内容について体系的に理解を深め、履修科目との関連付けを行う事ができる。 |   |       |          |   |            |   |                  |  |
| 汎用的な技能         | 履修科目の修得状況を振り返りながら、自己の分析を行い、具体的な行動計画を立案できる。            |   |       |          |   |            |   |                  |  |
| ※実習先<br>職務上の技能 | 専門実践技能  | 可能な範囲において行われる実習項目において、動物看護師としての業務、役割を果たす。                   |       |          |   |            |   |                  |  |
|                | 対人技能  | チーム動物医療である事を理解し、スタッフ・飼い主と良好なコミュニケーションがとれる。                  |       |          |   |            |   |                  |  |
|                | 分析技能  | 実習計画に基づき、実習中において経験や理解できた内容をポートフォリオに記録し、振り返りや時期課題設定を行うことができる |       |          |   |            |   |                  |  |
|                | 管理・指導技能   | 実習中に提示される助言や指導を受ける中で、積極的な姿勢を示しながら実習に取り組む。                   |       |          |   |            |   |                  |  |
| 自律性と責任感        | 責任持って実習に取り組み、どのように自己研鑽に取り組むかを明確にする。                   |   |       |          |   |            |   |                  |  |
| 倫理観とプロ意識       | 職業人としての倫理や言動を意識しながら行動できる。                             |   |       |          |   |            |   |                  |  |
|                |   | 4. 非常に良い(優)   |       | 3. 良い(良) |   | 2. 概ね良い(可) |   | 1. かなりの努力が必要(不可) |  |

(2) 教育目標、及び教育内容・方法の明確化

本項目で利用する教育支援ツール

- 動物看護総合実習 目的・目標一覧表・・・学修目標と学習成果を明確化。
- カリキュラムツリー・・・動物看護総合実習の教育課程を明確化。
- 動物看護総合実習学習工程チャート図・・・学生の学習形態を設計・立案。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.1 動物看護総合実習 目標・目的一覧表                           |
| ツールの概要説明   | 3つの階層にした「動物看護総合実習」の各階層における実習の目的・目標を明記する。        |
| ツールの構成及び内容 | 「理解型」「体験型」「実務型」それぞれの実習年次・期間(日数)・時間数・目的・目標を明記する。 |
| プレイヤーのかかわり | 学生・専修学校・動物病院                                    |
| 利用方法       | ガイドライン実習の目的理解                                   |
| 留意点        | 目標・目的は、各校の教育体制に沿って適宜調整する。                       |

▶ 〈4.1 動物看護総合実習 目的・目標一覧表〉は、7ページに掲載の「表2-2 動物看護総合実習 目的・目標一覧表」を参照してください。

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.2 カリキュラムツリー  |
| ツールの概要説明   | コアカリキュラムを基とし、どの教科をいつ頃実施するかを示し、全教科と各教科の関連性を示す。                                |
| ツールの構成及び内容 | コアカリキュラムに基づいて、各教科の実施時期を示し、3段階に階層化した実習の各実施時期までに履修していることが望ましい教科が把握できるような構成とする。 |
| プレイヤーのかかわり | 学生：学習工程と履修内容を把握する。各自の履修内容が確認できる。<br>動物病院：学生個人の修得度が明らかになり、確認できる。              |
| 利用方法       | 学生：就学年数全体の履修関係がわかる。<br>動物病院：学生が履修する科目の全体像がわかる。現状の学年次で修得している科目と実習とのかかわりがわかる。  |
| 留意点        | 各科目の履修時期は、各校の教育体制に沿って適宜調整する。   |

- ▶ 〈4.2 カリキュラムツリー〉は、9ページに掲載の「図2-3 標準的なカリキュラム（カリキュラムツリー）」を参照してください。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.3 動物看護総合実習 学習工程チャート図                        |
| ツールの概要説明   | 実習前の教育から実習中、実習後教育までの流れと、各段階で使用する教育支援ツールを記載する。 |
| ツールの構成及び内容 | 実習前教育～実習オリエンテーション～動物病院実習～実習後教育（評価と振り返り）を示す。   |
| プレイヤーのかかわり | 学生・専修学校・動物病院                                  |
| 利用方法       | 動物看護総合実習の工程を理解する。各実習段階で活用するツールを理解する。          |
| 留意点        | 学習工程は、各校の教育体制に沿って適宜調整する。                      |

- ▶ 〈4.3 動物看護総合実習 実習工程チャート図〉は、10ページに掲載の「表2-2 動物看護総合実習 学習工程チャート図」を参照してください。

### （3）役割分担（負担）の明確化

本項目で利用する教育支援ツール

- 動物看護総合実習協定書・・・実習内容の確認、実習における双方の役割。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.7 動物看護総合実習協定書   |
| ツールの概要説明   | 学校と実習先間での実習内容の文書確認、実習における双方の役割の明確化、実習期間内での不測の事態への対処、学生を含めた双方の禁止事項の確認などをお互いに文書にて確認し締結する。 |
| ツールの構成及び内容 | 動物看護総合実習における目的、基本的役割、事故責任、機密保持、動物病院での活動の中止、有効期間、協定書の                                    |

|            |   |
|------------|---|
|            | 解釈などを記載する。  |
| プレイヤーのかかわり | 動物病院・専修学校   |
| 利用方法       | 使用タイミング：実習内容の確認ができた時点、実習前までに取り交わす。<br>使用対象：学校・実習先動物病院<br>利用方法：学校・実習先双方にて、組織（企業）名、所在地、代表者名の記入、代表社印の押印をした協定書を2部作成し、双方で保管する。 |
| 留意点        | 本協定書は実習委託に関わる契約に相当する重要な書類であるため、学校と動物病院の双方で管理、取り扱いに注意する。   |

▶ 〈4.7 動物看護総合実習協定書〉から一部抜粋。

|  |
|--|
| <p>動物看護総合実習に関する協定書</p> <p>〇〇〇〇〇〇専門学校校長 〇〇〇〇〇〇（以下「甲」という。）と〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇（以下「乙」という。）とは、甲の学生（以下「学生」という。）のうち、動物看護総合実習を行う者（以下、「実習学生」という。）が乙における動物看護総合実習（以下、「企業実習」という。）を行うにあたり、下記のとおり協定書を締結する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>（目的）</p> <p>第1条</p> <p>（1）動物病院での実際の動物看護業務を体験型実習、補助型実習、実務型実習の3段階で体験し、学内で身に付けた知識や技術を総合的に実践することを目的とする。</p> <p>（基本的役割）</p> <p>第2条</p> <p>（1）乙は、実習学生を受け入れるにあたり、動物看護業務において必要となる実践的かつ専門的な能力を修得するための能力を持った従業員（以下「実習指導者」という。）を充て教育及び指導を行う。</p> |
|--|

（4）学生に対する報酬・知的財産の帰属

現段階においては、実習に関わる経費・報酬・知的財産の帰属に関する事項は定めない。今後、国家資格のカリキュラム要件や臨地実習の詳細が決定したのちに検討する。

（5）実施上の協定・契約の締結

本項目で利用する教育支援ツール

- 動物看護総合実習承諾書・・・実習受入れの承諾の確認。
- 動物看護総合実習協定書・・・実習内容の確認、実習における双方の役割。
- 動物看護総合実習誓約書・・・実習時の遵守事項、禁止事項の確認。

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.6 動物看護総合実習承諾書  |
| ツールの概要説明   | 実習依頼先に実習受入れの承諾を確認する。   |
| ツールの構成及び内容 | 承諾のための同意事項を示す。<br>動物病院記入欄（企業名、代表者、所在地、TEL、FAX）   |
| プレイヤーのかかわり | 動物病院   |
| 利用方法       | 使用タイミング：「動物看護総合実習申込書」に同封して送付する。<br>使用対象：実習先にて記入、学校へ返信する。<br>利用方法：実習申込時に同封した返信用封筒にて学校へ送付する。 |
| 留意点        | 返信回収については実習前とする。   |

▶ 〈4.6 動物看護総合実習承諾書〉から一部抜粋。

### 動物看護総合実習生受入承諾書

○○○専門学校長 殿

当動物病院における認定動物看護師受験資格取得のための動物看護総合実習生を下記の項目に同意した上で受入れることを承諾する。

記

1. 動物看護総合実習については、当動物病院の獣医師もしくは動物看護師の監督指導のもとで、実習を行わせる。
2. 指導を行った獣医師もしくは動物看護師は、実習記録確認、実習評価を行う。
3. 動物看護総合実習の実施時期、内容については、動物看護総合実習申込書記載のとおりとする。

以上

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.7 動物看護総合実習協定書   |
| ツールの概要説明   | 学校と実習先間での実習内容の文書確認、実習における双方の役割の明確化、実習期間内での不測の事態への対処、学生を含めた双方の禁止事項の確認などをお互いに文書にて確認し締結する。 |
| ツールの構成及び内容 | 動物看護総合実習における目的、基本的役割、事故責任、機密保持、動物病院での活動の中止、有効期間、協定書の解釈などを記載する。                          |
| プレイヤーのかかわり | 動物病院・専修学校   |

|      |  |
|------|--|
| 利用方法 | <p>使用タイミング：実習内容の確認ができた時点、実習前までに取り交わす。</p> <p>使用対象：学校・実習先動物病院</p> <p>利用方法：学校・実習先双方にて、組織（企業）名、所在地、代表者名の記入、代表社印の押印をした契約書を2部作成し、双方で保管する。</p> |
| 留意点  | <p>本協定書は実習委託に関わる契約に相当する重要な書類であるため、学校と動物病院の双方で管理、取り扱いに注意する。</p>   |

▶ 〈4.7 動物看護総合実習協定書〉は、3.3(3) / 17、18ページを参照してください。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.8 動物看護総合実習誓約書   |
| ツールの概要説明   | <p>実習学生の実習時の遵守事項、禁止事項などを明示、確認する。</p>  |
| ツールの構成及び内容 | <p>実習時の遵守事項、禁止事項と実習学生の記名、押印、住所及び連絡先</p>   |
| プレイヤーのかかわり | 学生  |
| 利用方法       | <p>使用タイミング：実習前までに実習先へ送付する。</p> <p>使用対象：学校・学生</p> <p>利用方法：学校より実習学生へ配布。実習学生の記名、押印の上、学校へ提出し、学校で取りまとめた誓約書を実習先へ送付する。</p> |
| 留意点        | <p>個人情報を含む書類の為、管理・保管には十分に注意する。</p>  |

▶ 〈4.8 動物看護総合実習誓約書〉から一部抜粋。

|   |
|---|
| <p><b>誓 約 書</b></p> <p>この度は、貴事業所において動物看護総合実習させていただきますことを誠に有り難くお礼申し上げます。</p> <p>令和 年 月 日から 月 日までの実習につきまして、下記事項を厳守することを誓約いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貴事業所の諸規定を遵守するため実習指導者の指示に従います。</li> <li>2. 貴事業所の職務の信用を傷つける行為、不名誉となるような行為は行いません。</li> <li>3. 無断で欠席、遅刻及び早退はしません。</li> <li>4. 実習期間中に知り得た情報については、貴事業所の承認を得ずに第三者に漏洩いたしません。</li> <li>5. 実習中に発生した事故、傷害などは、本人及び保証人並びに学校の責任において支弁いたします。</li> </ol> |
|---|

## (6) リスクマネジメント

本項目で利用する教育支援ツール

- 動物看護総合実習協定書・・・実習内容の確認、不測の事態への対処。
- 動物看護総合実習誓約書・・・実習時の遵守項目、禁止事項などの明示及び確認。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.7 動物看護総合実習協定書   |
| ツールの概要説明   | 学校と実習先間での実習内容の文書確認、実習における双方の役割の明確化、実習期間内での不測の事態への対処、学生を含めた双方の禁止事項の確認などをお互いに文書にて確認し、締結する。                                  |
| ツールの構成及び内容 | 動物看護総合実習における目的、基本的役割、事故責任、機密保持、動物病院での活動の中止、有効期間、協定書の解釈などを記載する。  |
| プレイヤーのかかわり | 動物病院・専修学校   |
| 利用方法       | 使用タイミング：実習内容の確認ができた時点、実習前までに取り交わす。<br>使用対象：学校・実習先動物病院<br>利用方法：学校・実習先双方にて、組織（企業）名、所在地、代表者名の記入、代表社印の押印をした協定書を2部作成し、双方で保管する。 |
| 留意点        | 本協定書は実習委託に関わる契約に相当する重要な書類であるため、学校と動物病院の双方で取り扱いや管理には十分に注意する。   |

▶ 〈4.7 動物看護総合実習協定書〉は、3.3(3)／17、18ページを参照してください。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.8 動物看護総合実習誓約書   |
| ツールの概要説明   | 実習学生の実習時における遵守事項、禁止事項などを明示、確認する。  |
| ツールの構成及び内容 | 実習時の遵守事項、禁止事項と実習学生の記名、押印、住所及び連絡先  |
| プレイヤーのかかわり | 学生  |
| 利用方法       | 使用タイミング：実習前までに実習先へ送付する。<br>使用対象：学校・学生<br>利用方法：学校より実習学生へ配布。実習学生及び保護者の記名、押印の上、学校へ提出し、学校で取りまとめた誓約書を実習先へ送付する。 |
| 留意点        | 個人情報を含む書類のため、取り扱いや管理には十分に注意する。  |

▶ 〈4.8 動物看護総合実習誓約書〉は、3.3(5)／20ページを参照してください。

動物病院実習におけるトラブルを未然に防止すること、そして、万が一発生した際の速やかで適切な対応は、動物看護総合実習を継続していく上で最も重要である。動物病院側も学生への対応が気になるところであり、また問題が発生した時の補償について、本事業で実施した平成30年度専修学校アンケート調査でも確認されている。多くは学生損害保険やインターンシップ損害保険に加入（58/60校）しており、万が一の事故発生時にはその保険で対処することが出来ている。そこで、既に各専修学校で学生が加入している保険内容を整理し、同調査により集約できたトラブル事故事例とその対処の情報を集約した。その中から特に発生頻度が高いと思われるものや、重大事故につながる可能性のあるものについて、その状況や防止策としてどのようなものがあるかを掲載した。今後、動物病院実習を継続的に実施、取り組む中で、実習前指導、オリエンテーション時の説明や、トラブルが発生した際の対応の参考として利用いただきたい。

■ 表3-3 適用される代表的な保険の種類

・一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団（学生・生徒災害傷害保険）

|          | 補償対象  | 死亡保険                    | 後遺傷害保険    | 入院保険            | 手術保険                       | 通院保険            |
|----------|-------|-------------------------|-----------|-----------------|----------------------------|-----------------|
| 傷害事故補償   | 正課中   | 2,000万円                 | 3,000万円限度 | 1日につき<br>4,000円 | 入院中以外<br>2万円<br>入院中<br>4万円 | 1日につき<br>1,200円 |
|          | 学校行事  | 1,000万円                 | 1,500万円   |                 |                            |                 |
|          | 学内休憩中 |                         |           |                 |                            |                 |
|          | 課外活動中 |                         |           |                 |                            |                 |
| 賠償責任保障   |       | 対人賠償：5,000万円 対物賠償：500万円 |           |                 |                            |                 |
| 臨床実習中（特） |       | 感染予防費用特約：30万円           |           |                 |                            |                 |

・一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団（インターンシップ活動賠償責任保険）

| 正課として実施されるインターンシップ活動 | 補償対象（種類）  | 支払限度額                |
|----------------------|-----------|----------------------|
|                      | 施設賠償責任保険  | 対人賠償：1億円 対物賠償250万円   |
|                      | 生産物賠償責任保険 | 対人賠償：1億円 対物賠償1億円     |
|                      | 受託者賠償責任保険 | 対人賠償：250万円 対物賠償250万円 |

・キャリア教育共済協同組合（学生・生徒24時間共済）

| 対象者 | 対象事由   | 補償対象（種類）       | 支払限度額 |
|-----|--------|----------------|-------|
| 学 生 | ケガ     | 傷害死亡共済金        | 200万円 |
|     |        | 傷害後遺障害共済金      | 200万円 |
|     |        | 傷害治療諸費用共済金     | 50万円  |
|     | 感染症    | 感染症予防・治療諸費用共済金 | 50万円  |
|     | 死亡     | 葬祭費用共済金        | 50万円  |
|     | 他人損害賠償 | 賠償責任共済金        | 1億円   |
| 扶養者 | 死亡     | 葬祭費用           | 50万円  |
| 学 校 | 他人損害賠償 | 施設賠償共済金        | 1億円   |
|     |        | 個人情報漏洩共済金      | 300万円 |

■ 表3-4 デュアル教育におけるリスクマネジメント（例）

| 時 期   | 内 容  |
|---|--|
| <p>■ 学生が被災する事故：学生自身が通勤中や実習中の事故で損害を受けるリスク。</p>   |  |
| 実習前   | ワクチン接種の義務付けへの対応。                           |
| 実習前   | 実習先をめぐる実習生同士のトラブル。                         |
| 実習中   | 実習中の事故（通勤中の交通事故、勤務中の転倒によるケガ等）。             |
| 実習中   | 実習中の感染。                                    |
| 実習中   | 実習先指導者からのハラスメント。                           |
| 実習中   | 前の実習先の情報を聞いてくる。                            |
| 実習中   | 動物からの咬傷事故。                                 |
| <p>傷害保険で大部分はカバーできるので、特約事項などを十分理解したうえで、加入保険の選択が必要となる。特に感染症対応も学生を守る観点で留意すべきである。<br/>ハラスメント関連は別記。</p>      |  |
| <p>■ 学生の行為による損害：学生が実習中に設備・備品などを破損、第三者への損害、業務への損害を与えてしまうリスク。</p>   |  |
| 実習中   | 実習生と実習先職員または飼い主とのトラブル（態度がよくない等）。           |
| 実習中   | 実習先の所有物の破損や看護動物に対する損害。                     |
| 実習中   | 実習先からの消極的な実習生に対する不満（挨拶・身だしなみ・態度）。          |
| 実習中   | 実習生のルール違反による実習先からのクレーム、及び実習停止要請。           |
| <p>対人のケガや対物破損に関しては、障害保険の対象となる場合があることから、実習提携の際に行う損害保険に係る説明に基づき手続きに必要な情報（現場写真等も）を動物病院側に協力依頼を実施しておくこと。</p> |  |
| <p>■ 学生による機密漏洩：企業秘密が学生により漏洩してしまうリスク。</p>  |  |
| 実習中   | 実習生による実習先（動物病院、職員情報等）や実習内容に関する情報漏洩。        |
| 実習後   | 学生のSNSへの書き込み（病院情報・実習への不満等）。                |
| 実習後   | 学生同士での情報交換により、実習先を選び好みする。                  |
| 実習中   | トリミングサロンでお客様のペットをカットした後の写真を twitter で公開した。 |
| <p>学生指導による防止策を講じるとともに、学校側が訴訟されることも考慮する必要がある。</p>  |  |
| <p>■ その他</p>  |  |
| 実習前   | 実習に向けて学生の意欲が不足している。                        |
| 実習中   | 実習中に実習生の意欲が低下する。                           |
| 実習中   | 実習生の遅刻・欠席（無断欠席）。                           |
| 実習後   | 自信を失った学生から動物看護職以外の職種に進路変更の申し出。             |
| 実習後   | 実習参加により学生の就職意欲の低下や迷いが生じた。                  |
| 実習前   | 実習前に体調を崩したため日程の再調整を行った。                    |
| 実習中   | 就職部からの情報がなく、急募の動物病院にインターンシップの依頼を行った。       |



## 実習中における指導者からのハラスメント

事例の状況 ※動物病院実習ガイドライン作成事業／アンケート結果より転載

- 動物病院スタッフによるパワハラ、セクハラ → リストにて管理。
- 実習先のスタッフからの暴力・暴言 → 院長に報告・防止依頼をおこなう。
- セクハラを受けた学生がいる → 即実習を中止、リストにて管理。
- 事後報告にてセクハラと思われる行為の報告 → 実習先リストから削除。
- 院長に蹴られた → 学生本人の体調不良として実習中止。
- 「院長からセクハラを受けそうになった」と保護者よりクレーム。
- 実習先のスタッフから実習学生の携帯番号を聞かれた。LINEの交換を執拗に迫られた。

【学生事前指導】 ※手引き・その他の留意事項（12）で指導

オリエンテーション時に、ハラスメントは現実に起こりうることを学生に認識させ、実際に遭遇した際の対処方法について、以下を参考に説明を行うこと。

- ・ハラスメントと感じたら、すぐに学校へ連絡する。
- ・当該者（ハラスメントを行うスタッフ）とは、二人きりにならないようにする。
- ・学生はハラスメントを我慢する必要はなく、当該者に率直に不快であることを伝える。それが難しい場合は、他のスタッフに伝え、学校にも連絡する。
- ・可能な範囲で良いので、『どんなハラスメントを』『いつ』『誰から受けたか』を、記録しておくようにする。

【実習先への事前注意喚起】

- ・過去に他の動物病院で問題になったハラスメント事例などを伝え、節度ある対応をしてもらうよう依頼する。
- ・実習を受ける学生には女性が多いので、『身体に触れる』『肩に手を置く』『過度に接近する』『個人的なことを話題にする』など、ハラスメントとして誤解を招く可能性がある言動や行動にも十分に配慮をしてもらう。

【トラブル発生時：学校対応】

- ・正確な情報の収集に努めることが重要（ハラスメントなのか、犯罪性はないか等）。人格を否定する言葉や不快と感じる行為の有無を確認する。
- ・学生・動物病院の双方から事情を聞き、事実を確認することが望ましい。
- ・ハラスメントの可能性が高い場合は、その後の対応を検討する（実習先への連絡、抗議、中止の要否、被害届などの要否）。
- ・学生の思い違いである可能性が考えられる場合は、学生の心情、状態に十分に配慮した上で、気持ちの切り替えやモチベーションの維持などの対応をとる。
- ・ハラスメントの発生後は、心理的ケアを含め、被害者学生への支援を適切に講じる。

## 実習中における学生による情報漏洩

事例の状況 ※動物病院実習ガイドライン作成事業／アンケート結果より転載

- 無許可で建物内を撮影し、SNSに投稿した。
- 動物病院名を出してネガティブな内容を投稿し、動物病院スタッフより指摘を受けた。
- 入院動物の写真を投稿した。

【学生事前指導】 ※手引き・利用者や看護動物に対して（１）守秘義務にて指導

オリエンテーション時に、SNSの実態把握（使用ツールやその目的、頻度等）に努めた上で学生指導に当たることや、個人情報個人情報保護法により保護されていることを理解させること。実習先のいかなる情報、及び学生の実習目的に反すること、写真などは取り扱わないこと。

- ・個人または法人（動物病院・スタッフ・飼い主及び来院動物等）を特定できるような情報は投稿しないこと（プライバシーの尊重）。
- ・情報漏洩により相手が損害を被った場合には損害賠償請求や法律で罰せられる場合があることも伝える。
- ・SNS拡散の脅威について実際に起こった事例を提示して理解させる。
- ・ポートフォリオに画像を記録したい場合は、必ず許可（撮影対象と使用目的を伝える）をとること。また撮影の際は、プライバシー配慮の観点から画像の構図に配慮すること（撮影対象以外を被写体としない）。
- ・実習先での不満や疑問については必ず学校に相談すること。
- ・学生同士で共有アカウントを設定している場合は、危険だと感じる投稿を見かけたら、担任まで報告するよう指導すること。

【実習先への事前注意喚起】

- ・実習生より現場撮影の依頼があった場合は、撮影対象と使用目的を聞き、状況に応じて対応してもらうよう依頼する。
- ・動物病院で行われるオリエンテーション時に、注意事項としてSNS使用や情報漏洩についての指導も依頼する。

【トラブル発生時：学校対応】

- ・トラブルが発生した段階で実習先にはできるだけ早急に連絡する。
- ・正確な情報の収集に努める（使用ツール・投稿日時、共有アカウント等）。
- ・事後の学生指導と評価において十分指導を行う。

### 3.3 デュアル教育の実施（D○）

- 本節は、デュアル教育を実際に実施する段階に関して、最低限度必要な手続き・要素を体系的に整理する。

#### （1）受け入れ企業などの開拓

本項目で利用する教育支援ツール

- 動物看護総合実習申込書・・・実習可否の依頼と確認。
- 動物看護総合実習提案書・・・動物病院に目的や役割・利点を理解させる。

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.5 動物看護総合実習申込書  |
| ツールの概要説明   | 実習受入候補先動物病院に対して、実習の可否の確認、及び実習先における実習内容を確認する。   |
| ツールの構成及び内容 | 実習の可否の確認、受け入れ人数、実習期間、実習時間、実習内容を示す。   |
| プレイヤーのかかわり | 動物病院・専修学校  |
| 利用方法       | 使用タイミング:実習前までに学生の実習受入れを希望する動物病院に提出する。<br>使用対象:学校にて作成した「動物看護総合実習申込書」を実習先へ送付する。<br>利用方法:学校から動物病院へ送付する。 |
| 留意点        | 2部作成(コピー可)し、原本を動物病院へ提出。控えは学校で保管する。   |

#### ▶ 〈4.5 動物看護総合実習申込書〉から一部抜粋。

### 動物看護総合実習申込書

〇〇〇〇動物病院  
代表者 〇〇 〇〇 様

謹啓 貴院ますますご清栄の段、お慶び申し上げます。日頃より、本校の教育に関しまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本校では認定動物看護師受験資格取得のための動物病院での動物看護総合実習を実施しております。

業務ご多忙のところ貴重なお時間を頂戴し、実習を受け入れていただくことになりましたが、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、貴院のご繁栄をお祈り申し上げます。

謹白

記

学生人数： 〇名 ※学生個人表をご確認ください。

---

実習期間： 令和〇〇年〇〇月〇〇日 ～ 令和〇〇年〇〇月〇〇日のうち〇〇日間

---

実習時間： 1日8時間程度

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.4 動物看護総合実習提案書   |
| ツールの概要説明   | 実習を開始するにあたり、その目的・目標など全体像を説明し、動物病院への実習受入れの協力を提案（依頼）する。       |
| ツールの構成及び内容 | 実習目的・目標一覧表、学習工程チャート図、実習評価など、動物病院におけるオリエンテーションの参考資料とする。      |
| プレイヤーのかかわり | 専修学校・動物病院   |
| 利用方法       | 実習先の開拓時や、実習受入先動物病院への実習内容を説明する際に活用する。                        |
| 留意点        | 動物病院に過度な負担を生じさせないため、本実習を正確に理解してもらえるように説明する。受入れによる利点もアピールする。 |

▶ 〈4.4 動物看護総合実習提案書〉は、3.2(1) / 15ページを参照してください。

#### (2) 希望学生と受入企業などとのマッチング

本項目で利用する教育支援ツール

- 学生個人表・・・実習生のプロフィールを紹介する。
- カリキュラムマップ・・・動物看護総合実習の教育課程を明確化。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.12 学生個人表  |
| ツールの概要説明   | 実習先に対して、実習学生の個人情報が必要な範囲で提示し、実習生の理解を求める。   |
| ツールの構成及び内容 | 実習生写真、学校名、学科名、学年、氏名、ふりがな、生年月日、現住所、通学経路、電話番号（学生）、取得資格、長所・自己PR、就職希望先の診療体制、志望動機などを示す。    |
| プレイヤーのかかわり | 動物病院・専修学校・学生  |
| 利用方法       | 使用タイミング：「動物看護総合実習申込書」送付時に添付する。<br>使用方法：実習学生が記入し、実習先に送付する。<br>利用方法：「動物看護総合実習申込書」に添付する。 |
| 留意点        | 実習先は学生個人情報を動物看護総合実習に関わる以外には一切利用しない。保管管理には十分に注意する。また、実習に関係しない学生の情報は提示しないように気をつける。      |

▶ 〈4.12 学生個人表〉から一部抜粋。

|          |                |    |
|----------|----------------|----|
| ふりがな     |                | 写真 |
| 氏名       |                |    |
| 生年月日     | 平成 年 月 日 ( 歳 ) |    |
| 現住所      | 〒 -            |    |
| 電話番号(学生) | - -            |    |
| 取得資格     |                |    |

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.2 カリキュラムツリー   |
| ツールの概要説明   | コアカリキュラムを基とし、どの教科をいつ頃実施するの<br>かを示し、全教科と各教科の関連性を示す。  |
| ツールの構成及び内容 | コアカリキュラムに基づいて、各教科の実施時期を示し、<br>3段階に階層化した実習の各実施時期までに履修してい<br>ることが好ましい教科が把握できるような構成とする。      |
| プレーヤーのかかわり | 学生：学習工程と履修内容を把握する。各自の履修内容が<br>確認できる。<br>動物病院：学生個人の修得度が明らかになり、確認できる。                       |
| 利用方法       | 学生：就学年数全体の履修関係が理解できる。<br>動物病院：学生が履修する科目の全体像が理解できる。現<br>状の学年次で修得している科目と実習とのかかわりが理<br>解できる。 |
| 留意点        | 各科目の履修時期は、各校の教育体制に沿って適宜調整す<br>る。  |

▶ 〈4.2 カリキュラムツリー〉は、9ページ掲載の「図2-3 標準的なカリ  
キュラム（カリキュラムツリー）」を参照してください。

(3) 学生の受入態勢整備

本項目で利用する教育支援ツール

- 動物看護総合実習提案書・・・動物病院に目的や役割・利点を理解させる。
- 動物看護総合実習評価表・・・実習の成果について評価説明をおこなう。
- 動物看護総合実習手引き（学生）・・・実習の際の留意点・注意点を認識する。
- 動物看護総合実習手引き・指導要領・・・指導のポイントが記されているので、事  
前に教員への学習に使用する。

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.4 動物看護総合実習提案書  |
| ツールの概要説明   | 実習を開始するにあたり、目的・目標など全体像を説明し、動物病院への実習受入れの協力を提案（依頼）する。          |
| ツールの構成及び内容 | 目的・目標一覧表、学習工程チャート図、実習評価など、動物病院におけるオリエンテーションの参考資料とする。         |
| プレイヤーのかかわり | 専修学校・動物病院  |
| 利用方法       | 実習先の開拓時や、実習受入先動物病院への実習内容を説明する際に活用する。                         |
| 留意点        | 動物病院に過度な負担を抱かせないなど、本実習をしっかりと理解してもらえるように説明する。受入れによる利点もアピールする。 |

▶ 〈4.4 動物看護総合実習提案書〉は、3.2(1) / 15ページを参照してください。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.16 動物看護総合実習科目評価シート  |
| ツールの概要説明   | 動物看護総合実習の評価を行う。評価要素は、NQF (National Qualifications Framework) から引用する。                |
| ツールの構成及び内容 | 「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能（専門実践技能）（対人技能）（分析技能）（管理・指導技能）」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」を示す。         |
| プレイヤーのかかわり | 動物病院・教員   |
| 利用方法       | 動物病院：「職務上の技能（専門実践技能）（対人技能）（分析技能）（管理・指導技能）」<br>教員：「知識と理解」「汎用的な技能」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」 |
| 留意点        | 基本的に学生には評価のフィードバックは行わない。学生にフィードバックする場合は、動物病院の承諾を取る。                                 |

▶ 〈4.16 動物看護総合実習科目評価シート〉は、3.2(1) / 15、16ページを参照してください。

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.13 ① 動物看護総合実習手引き（学生）   |
| ツールの概要説明   | 動物看護総合実習各段階の実習目標を意識し、学生が実習に臨む際の諸心得や注意事項を適切に理解できるように実習における重要事項を示す。  |
| ツールの構成及び内容 | 実習の目的・目標、履修時間と実習計画、実習前に達成すべき課題、実習のための準備、実習の心得（留意点・観察・記録・報告・服装身だしなみ）、守秘義務・ハラスメント、態度・言葉遣い、勤務時間（出勤時間）、健康管理、実習の修了・実習後の振り返りを示す。 |
| プレイヤーのかかわり | 学校：専修学校の教員は、事前学習において、学生に理解   |

|      |   |
|------|---|
|      | できるように指導する。   |
| 利用方法 | 使用タイミング：実習前オリエンテーションの際、実習後振り返り時点で。<br>使用対象：学生<br>利用方法：実習の意義や心得を十分に理解させ、動物病院実習が潤滑に且つ学習の効果を得られるように指導する。 |
| 留意点  | 学生自身がより主体的に実習に取り組めるよう、疑問や不安を取り除き、意欲を向上させるように工夫する。   |

▶ 4.13① 動物看護総合実習手引き（学生）から一部抜粋。

|  |  |
|--|--|
| 動物看護総合実習 手引き （学生）  |  |
| はじめに （一般社団法人日本動物看護職協会 倫理綱領前文より一部抜粋）  |  |
| <p>動物も人と同様に、自らの存在を尊重され、健やかな生活を送ることを願っている。しかし、動物たちには言葉はなく、直接人間に訴えることはできない。人間は、動物たちが人間に何を望んでいるかを常に考え、動物たちの思いに応えなければならない。</p> <p>動物看護師は、動物の看護を業務として動物医療の最前線で活動する専門職である。</p> <p>動物の看護は、多様な環境に生存する多様な動物種を対象として、動物の健康の保持と増進、病気の予防と動物医療の補助に務め、動物たちが健やかな一生を全うするように援助することを目的としている。</p> <p>動物も個々の個性がある事を認識し、時期と状況に応じた個別的判断や創造的思考を持って、動物看護を行う能力を養う必要がある。そのためには、動物の特性を把握し、その動物にとって幸せとは何か、QOL（生活の質）を高めるためにはどのような援助をしたらよいか考え、実際に実践していく必要がある。</p> |  |

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.13 ② 動物看護総合実習手引き・指導要領   |
| ツールの概要説明   | 実習心得を用いて実習の重要事項を指導する際に、特に注意することやその意図など、指導のポイントを記す。  |
| ツールの構成及び内容 | 学生向けの手引き／実習の目的・実習の目標・履修時間と実習計画・実習前に達成すべき課題・実習のための準備・実習の心得（留意点・観察・記録・報告・服装身だしなみ）・守秘義務・態度・言葉遣い・勤務時間（出勤時間）・健康管理などについての指導ポイントを明示。 |
| プレーヤーのかかわり | 学校：学生専修学校教員が事前学習において、学生に理解できるように指導する。   |
| 利用方法       | 使用タイミング：実習前オリエンテーションの際、実習後振り返り時点で。<br>使用対象：指導要領・学校教員<br>利用方法：実習の意義や心得を十分理解させ動物病院実習が潤滑に且つ学習の効果を得られるように指導する。                    |
| 留意点        | 学生自身が実習中に注目したい着眼点を認定し、今まで学習した内容とつながることを意識させ、自主性を促すような指導が望ましい。   |

4.13② 動物看護総合実習手引き・指導要領から一部抜粋。

はじめに <sup>※1</sup> (一般社団法人日本動物看護職協会 倫理綱領前文より一部抜粋)

動物も人と同様に、自らの存在を尊重され、健やかな生活を送ることを願っている。しかし、動物たちには言葉はなく、直接人間に訴えることはできない。人間は、動物たちが人間に何を望んでいるかを常に考え、動物たちの思いに応えなければならない。

動物看護師は、動物の看護を業務として動物医療の最前線で活動する専門職である。

動物の看護は、多様な環境に生存する多様な動物種を対象として、動物の健康の保持と増進、病気の予防と動物医療の補助に務め、動物たちが健やかな一生を全うするように援助することを目的としている。

動物も個々の個性がある事を認識し、時期と状況に応じた個別的判断や創造的思考を持って、動物看護を行う能力を養う必要がある。そのためには、動物の特性を把握し、その動物にとって幸せとは何か、QOL（生活の質）を高めるためにはどのような援助をしたらよいか考え、実際に実践していく必要がある。

動物看護総合実習は、体験によって必要な技術を実践できる能力を養うだけでなく、自らの人間性を養い、**専門職としての資質を高める場である** <sup>※2</sup>。

I. 動物看護総合実習の目的 <sup>※3</sup>

■ 理解型実習の目的

1. 動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等）を理解する。
2. 動物病院内で動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携、動物看護における職務内容を理解する。
3. 学内でのカリキュラム、各教科と実際の業務との関連を知る事で、必要性や目的を理解し意欲の向上を図る。

【① 指導ポイント】  
動物看護総合実習全体としての目標であることを意識させ、最終実習が終了した時点での仕上がりのイメージを持たせる指導を行う。

【② 指導ポイント】  
動物看護師という職が意義ある職業であることを理解させ、学習意欲、就職意欲を高めさせる。

【③ 指導ポイント】  
教科としての目的なので、学生には個別に目的を立てさせる。  
自身の動物看護師像等。

(4) 企業内実習

本項目で利用する教育支援ツール

- ポートフォリオ・・・ゴールシートの作成及び実習の活動記録収集。
- 動物看護総合実習項目チェックリスト・・・実習活動について記録を行う。
- 動物看護総合実習自己評価シート・・・実習の振り返りを兼ねて自己評価を行う。

| ツール名       | 4.11 ポートフォリオ  |
|------------|---|
| ツールの概要説明   | 学習歴やスキル、実績と実証するためのツールであり、インプットした成果を相手に伝えるための目的に沿って収集し、ファイリングする。作成したものを振り返ることで、今後の取り組みに活かすことにつなげる。   |
| ツールの構成及び内容 | 目的、目標を設定し、自身がどうなりたいか、そうなるためにどのようなスキルを習得したいのかなどを明確にする。そのうえで、達成できる(しやすい)具体的な計画をたてる。<br>日々の実習内容を記入し、実習中のエビデンスやエピソードを収集、記録する。(個人の技能・思考・成果など根拠を蓄積する) |
| プレイヤーのかかわり | 専修学校: 学生の目的・目標設定や具体的な計画をたてるにあたり指導する。<br>学生: 自身の目標を明確にし、日々振り返りと共に作成する。<br>動物病院: 毎日実習記録を確認し評価表記入時の参考とする。  |



|             |  |
|-------------|--|
| <p>利用方法</p> | <p>使用タイミング：実習前オリエンテーション、実習中、実習後に使用する。<br/>         使用対象：専修学校、学生、動物病院<br/>         利用方法：実習での課題を見つけ、その課題への取り組みプロセスを理解させ、実習後の学習へつなげる。</p> |
| <p>留意点</p>  | <p>実習後の振り返りで、具体的なエビデンスとして活用させる。<br/>         動物看護業務における記録という意味も含むことを認識させる。</p>   |

▶ 〈4.11 ポートフォリオ〉から一部抜粋。

**■作成にあたっての留意事項**

ポートフォリオとは学習歴やスキル、実績を実証するための成果を相手に伝えるために、目的に沿って収集し、ファイリングされた作品集といえます。いわば自分を表現するための一つのツールと考えてください。このポートフォリオを基に評価がなされますので、下記の点に留意しながら作成を心がけてください。

- 目的**  
 実習生は作成したポートフォリオを振り返る事で、これまでの実習にどのように取り組んできたのかを振り返り、そして発見したことを今後の取り組みに活かすよう努力する事。
- 事前準備**  
 実習生はポートフォリオ作成にあたり、まず各実習におけるゴールシートを完成する事。ゴールシートは、学習履歴チェック・自己分析を行った後に、まず目的（自身がどうなりたのかという願い）を設定し、次に目標（実習のテーマとして習得したいスキルや項目）を設定する事。  
 目標を達成するための具体的な行動計画を設定する事。
- 収集**  
 記入または収集する学習の成果物としては、指導をうけた実例や飼い主の会話（エピソード）やオリエンテーションで受けた動物病院の概要や実習内容・業務に関するプリントやメモ類、実習先からの配布物や資料、関連した新聞記事やレポート、許可された画像等（エビデンス）が挙げられるが、外部から入手したものだけではなく自身が感じたことや浮かんだアイデア等も記載する事。

**■具体的な計画表**

（動物看護総合実習の目的と目標等を参照しながら自分自身の行動計画や目標を具体的に記入してください）

|        |
|--------|
| (実習前)  |
| (実習前半) |
| (実習後半) |

**■動物看護総合実習ポートフォリオ ゴールシート**

目指す動物看護師  
 信頼される動物看護師

(理由)  
 信頼されないと仕事を任せてもらえないから。  
 飼い主様と信頼関係がうまく構築できればエデュケーションが成功し、幸せな動物を増やせると思うから。

| 具体的な目標           | 目標達成度                                     | 維持・向上のための対策                   |
|------------------|---|-------------------------------|
| 例)<br>・身だしなみを整える | 100%                                      | 実習の取り組み前には鏡の前で確認する            |
| ・挨拶を自ら元気に行う      | 70%<br>(初対面の人へは躊躇してしまっ)                   | 初対面の人へはまずは自主的な声かけを目標とする。      |
| ・報告をおこなう         | 80%<br>(忘れていたわけではないが、指示者が望むタイミングでできなかった。) | 相手が望む報告のタイミングを確認し、確実に行うようにする。 |

**■実習ポートフォリオ（記録）**

| 月 日 ( ) |      |       |
|---------|------|-------|
| 時間      | 活動内容 | 思考と考察 |
|         |      |       |

**実習のエビデンスとエピソード**

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.14 動物看護総合実習項目チェックリスト  |
| ツールの概要説明   | 動物看護総合実習の各段階において、学生が学ぶ動物看護師の役割や機能、及び技術面の習得度を自身で評価し、課題を見つける。   |
| ツールの構成及び内容 | 項目（環境、食事、排泄、活動・休息、身体の清潔、呼吸・循環を整える、創傷管理、投薬の技術、症状・生体機能管理、感染予防、安全管理、動物医療コミュニケーション、手術前後の看護等）これらの実習項目について、理解型・体験型・実務型ごとにA・B・C段階で自己評価を行う。 |
| プレイヤーのかかわり | 学生：各段階の実習で学生が記入する。なお、実習中に実習先（動物病院）が確認してもよい。<br>学校：実習後、教員と学生とが共有し実習内容を確認する。  |
| 利用方法       | 学生が動物看護総合実習の各段階で毎日記入し、自身の学習理解を深めるために使用する。   |
| 留意点        | 学生自身が記録することで実習内容を振り返り、自己の課題点や改善点を見出すことが重要であることを認識させる。   |

▶ 〈4.14 動物看護総合実習項目チェックリスト〉から一部抜粋。

| 学籍番号                           | 学生名                            | 【学生自己評価欄】 ※回数を正の字で記入<br>A:実施できた B:体験できた C:見学できた |   |      |      |     |   |      |      |
|--------------------------------|--------------------------------|---|---|------|------|-----|---|------|------|
| 項目                             | 技術細目                           | 理解型   |   |      |      | 体験型 |   |      |      |
|                                |                                | 施設名   |   | 学生評価 |      | 施設名 |   | 学生評価 |      |
|                                |                                | A   | B | C    | 学生評価 | A   | B | C    | 学生評価 |
| 環境                             | 場所環境の観察                        |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 場所環境整備整頓                       |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 場所環境の衛生的清掃                     |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 清掃道具の整備                        |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | ケージの衛生的清掃                      |   |   |      |      |     |   |      |      |
| 食事                             | ケージ内の動物交換・整備                   |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 食事摂取状況の観察(食べ方、摂取方法、摂取量)のアセスメント |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 栄養状態のアセスメント                    |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 電解質のアセスメント(脱水状態の観察)            |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 食事のカロリー計算、配膳、セッティング            |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 体調や容態に適したセッティングの工夫             |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 採食時の体位・要介助の判定(介助の必要あり・なし)      |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 採食の介助の工夫                       |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 採食障害あり・なし                      |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 経鼻チューブあり・なし                    |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 経管栄養による給食                      |   |   |      |      |     |   |      |      |
|                                | 経管の管理                          |   |   |      |      |     |   |      |      |
| 食事内容の説明・指導(看護動物の飼育家族に対する指導・教育) |                                |   |   |      |      |     |   |      |      |

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.15 動物看護総合実習自己評価シート   |
| ツールの概要説明   | 理解型・体験型・実務型で評価する。評価要素はNQF (National Qualifications Framework) から引用する。  |
| ツールの構成及び内容 | 「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能(専門実践技能)(対人技能)(分析技能)(管理・指導技能)」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」。それぞれの評価要素を4段階(4:非常に良い 3:良い 2:おおむね良い 1:かなりの努力が必要)で評価する。各評価基準も学生が判断しやすいような表現とする。 |
| プレイヤーのかかわり | 学生・教員  |
| 利用方法       | 学生は自己評価することで実習の振り返りを行い、課題を   |

|     |                                   |
|-----|-----------------------------------|
|     | 見出す。教員は、学生が自発的に課題を見いだせるように指導する。   |
| 留意点 | 基本的に学生の評価を尊重し、今後の成長に繋がられるように指導する。 |

➡ 〈4.15 動物看護総合実習自己評価シート〉から一部抜粋。

○評価基準は以下の通りです。

4. 非常に良い(優) 3. 良い(良) 2. 概ね良い(可) 1. かなりの努力が必要(不可)

| 質問項目   |      | 評価欄   |   |   |   |   |   |
|--------|------|---|---|---|---|---|---|
| 知識と理解  | 評価基準 | 動物病院の概要理解や動物看護師の業務内容について体系的に理解を深め、履修科目との関連付けを行う事ができましたか？      |   | 4 | 3 | 2 | 1 |
|        |      | 4   | 実習を通して動物病院の概況、動物看護師の職務内容を十分に理解する事ができ、関連する専門的分野の学習に対して強い意欲と関心を示す事ができた。 |   |   |   |   |
|        |      | 3   | 実習を通して動物病院の概況、動物看護師の職務内容を十分に理解する事ができ、関連する専門的分野の学習に対して関心を示す事ができた。      |   |   |   |   |
|        |      | 2   | 実習を通して動物病院の概況、動物看護師の職務内容を理解する事ができた。                                   |   |   |   |   |
|        |      | 1   | 実習を通して動物病院の概況、動物看護師の職務内容を理解するに至らず、関連する専門的分野の学習に対して関連付けができなかった。        |   |   |   |   |
| 汎用的な技能 | 評価基準 | 自己分析や学習履歴を基に適切な実習目標や行動計画を立案し、実習後には適切な評価を行う事ができ、次期課題設定ができましたか？ |   | 4 | 3 | 2 | 1 |
|        |      | 4   | 自己分析・実習目標の設定・実習計画・記録・振り返りが論理的に整理され、プレゼンテーションも良くでき、高い評価をもらう事ができた。      |   |   |   |   |
|        |      | 3   | 自己分析・実習目標の設定・実習計画・記録・振り返りが、論理的に整理できた。                                 |   |   |   |   |
|        |      | 2   | 自己分析・実習目標の設定・実習計画・記録・振り返りができている。                                      |   |   |   |   |
|        |      | 1   | 自己分析・実習目標の設定・実習計画・記録・振り返りができていない。                                     |   |   |   |   |

(5) 企業内実習前／実習後の教育

本項目で利用する教育支援ツール

(実習前) 前述の目的・目標一覧表、カリキュラムツリー、学習工程チャート図を使用し、自己の目的・目標、行動計画の策定、履修歴チェック、実習時の留意事項、実習活動について理解し行動がとれるようにする。

- カリキュラムマップ・・・学習歴のチェック。
- 自己分析シート・・・自己の振り返り。
- ポートフォリオ・・・ゴールシートの作成及び実習の活動記録収集。
- 学生個人表・・・実習生のプロフィールを紹介する。
- 自己評価シート・・・実習の振り返りを兼ねて自己評価を行う。
- 動物看護総合実習手引き(学生)・・・指導要領・実習の際の留意点・注意点を認識する。
- 動物看護総合実習誓約書・・・実習時の遵守事項、禁止事項の確認。

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.9 カリキュラムマップ・履修歴チェックシート   |
| ツールの概要説明   | コアカリキュラムを基とし、どの教科をいつ、どの程度実施するかを示す。                                 |
| ツールの構成及び内容 | コアカリキュラムに基づいて、各教科の実施時期(学年、前期・後期)と時間数を示す構成とする。                      |
| プレイヤーのかかわり | 学生: 学習工程と履修内容が把握できる。各自の履修内容が確認できる。<br>動物病院: 学生個人の修得度が明らかになり、確認できる。 |

|      |  |
|------|--|
| 利用方法 | チェックシートに記入することで、学生は各自の振り返りを行う。<br>動物病院はチェックシートで学生の履修程度を把握する。 |
| 留意点  | 各科目の履修時期は、各校の教育体制に沿って適宜調整する。                                 |

➡ 〈4.9 カリキュラムマップ・履修歴チェックシート〉から一部抜粋。

| 分野  | 学習目標                    | 授業科目(例) | 時間数 | 1年生 |    | 2年生 |    |                                       |
|---|-------------------------|---------|-----|-----|----|-----|----|---------------------------------------|
|   |                         |         |     | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |                                       |
| 基礎動物看護学   | 動物の体の構造と機能を理解する         | 動物形態機能学 | 120 | 60  | 60 |     |    | 動物の生命維持の仕組みを組織、臓器レベルの各階層で理解する         |
|   |                         | 動物繁殖学   | 30  |     |    | 30  |    | 繁殖に関わる形態機能学を学ぶ                        |
|   | 疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ | 動物病理学   | 30  |     |    | 30  |    | 様々な疾病が組織や臓器にもたらす影響を理解する               |
|   |                         | 動物薬理学   | 60  |     |    | 30  | 30 | 代表的な薬物の体内動態と作用や治療にどのように用いられるかを学ぶ      |
|   |                         | 動物感染症学  | 90  | 30  | 60 |     |    | 微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、衛生管理、予防・治療法などについて学ぶ |
| <p>学生の総合臨床実習時 履修歴チェック(選択⇒体験型実習・補助型実習・実務型実習)</p> <p><input type="checkbox"/>生物基礎知識 <input type="checkbox"/>臓器別形態と機能(循環器・呼吸器・消化器・内分泌・泌尿器・神経・運動器・造血器・皮膚・感覚器←修了しているものに○)</p> <p><input type="checkbox"/>犬・猫の雄性生殖器 <input type="checkbox"/>雌性生殖器 <input type="checkbox"/>性周期 <input type="checkbox"/>交配 妊娠と分娩 <input type="checkbox"/>新生子管理 <input type="checkbox"/>遺伝概論</p> <p><input type="checkbox"/>組織標本の作製法 <input type="checkbox"/>炎症 <input type="checkbox"/>変性 <input type="checkbox"/>壊死 <input type="checkbox"/>浮腫 <input type="checkbox"/>充血とうっ血 <input type="checkbox"/>過形成 <input type="checkbox"/>低形成 <input type="checkbox"/>肥大と萎縮 <input type="checkbox"/>奇形 <input type="checkbox"/>腫瘍</p> <p><input type="checkbox"/>投薬法 <input type="checkbox"/>投薬量の計算(事例の沿った計算ができるか) <input type="checkbox"/>薬物動態 <input type="checkbox"/>半減期 <input type="checkbox"/>代表的な治療薬と作用(神経系・呼吸器・循環器・泌尿器・消化器・ホルモン・ステロイド・化学療法薬←修了しているものに○) <input type="checkbox"/>副作用 <input type="checkbox"/>薬物間相互作用 <input type="checkbox"/>耐性 <input type="checkbox"/>中毒 <input type="checkbox"/>薬剤管理</p> <p><input type="checkbox"/>細菌 <input type="checkbox"/>真菌 <input type="checkbox"/>ウイルス <input type="checkbox"/>原虫 <input type="checkbox"/>吸虫 <input type="checkbox"/>線虫 <input type="checkbox"/>線足動物 <input type="checkbox"/>自然免疫と獲得免疫 <input type="checkbox"/>ワクチン <input type="checkbox"/>アレルギー <input type="checkbox"/>滅菌と消毒 <input type="checkbox"/>衛生管理</p> |                         |         |     |     |    |     |    |                                       |

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.10 自己分析シート   |
| ツールの概要説明   | 動物看護総合実習における各段階の目的を理解し、目標に対して事前に情報収集することで、動物病院実習を受ける前に自身の振り返りを行う。それにより実習に対する不安が軽減し、注意を喚起することを目的とする。                |
| ツールの構成及び内容 | 動物看護総合実習における各段階の目標について自身の「実習前の理解・把握している内容」「実習中に理解・把握した内容」の確認をする。<br>それらを踏まえたうえで、各段階の目的に対し、どのような目標をもって実習に臨むのかを確認する。 |
| プレイヤーのかかわり | 学生：自身の目標を明確にする。  |
| 利用方法       | 使用タイミング：実習前オリエンテーション。<br>使用対象：学生。<br>使用方法：動物病院実習で学習の効果を得られるように、目標を明確に持たせるために使用する。                                  |
| 留意点        | 動物病院実習への意欲向上が図れるよう、明確な目標設定を促す。   |

▶ 〈4.10 自己分析シート〉から一部抜粋。

| 自己分析(理解型) |                                |               |  |
|-----------|--------------------------------|---------------|--|
| 理解型実習の目標  | 自己分析<br>(実習前の理解・把握している内容)      | 実習中に理解・把握した内容 |  |
|           | 動物病院の概要<br>歴史的背景<br>例) 把握していない |               |  |

| 自己分析(体験型)               |  |  |  |
|-------------------------|--|--|--|
| 体験型実習の目標                | 自己分析<br>(実習前の理解・把握している内容)  | 実習中に理解・把握した内容  |  |
| オリエンテ<br>動物病院の<br>の職務内容 | 動物病院の概要<br>歴史的背景<br>例) 把握していない<br>地域特性<br>例) 把握していない<br>診療方針<br>例) 把握していない<br>職員構成<br>獣医師 動物看護師 十分に把握はしていない<br>動物看護師の職域<br>受付・診察補助・入院動物の世話 | 例) 学校飼育動物の教育に携わっていた<br>周辺に他院がないことから、この地域<br>での主要になっていた。<br><br>例) 必要な時に必要なものが使えるように<br>在庫チェックを行っていた。<br>歯磨き教室を動物看護師主体で行って<br>いた。 |  |

| ツール名       | 4.11 ポートフォリオ  |
|------------|---|
| ツールの概要説明   | 学習履歴やスキル、実績と実証をするためのツールであり、インプットした成果を相手に伝えるために目的に沿って収集し、ファイリングする。<br>作成したものを振り返ることで、今後の取り組みに反映させる。  |
| ツールの構成及び内容 | 目的・目標を設定し、自身がどうなりたいか、そうなるためにどのようなスキルを習得したいのかなどを明確にする。そのうえで、達成できる(しやすい)具体的な計画をたてる。<br>日々の実習内容を記入し、実習中のエビデンスやエピソードを収集、記録する(個人の技能・思考・成果など根拠を蓄積する)。 |
| プレイヤーのかかわり | 専修学校: 学生の目的・目標設定や具体的な計画をたてるにあたり指導する。<br>学生: 自身の目標を明確にし、日々振り返りと共に作成する。<br>動物病院: 毎日実習記録を確認し、評価表記入時の参考とする。   |
| 利用方法       | 使用タイミング: 実習前オリエンテーション、実習中、実習後に使用する。<br>使用対象: 専修学校、学生、動物病院。<br>利用方法: 実習での課題を見つけ、その課題への取り組みプロセスを理解させ、実習後の学習へつなげる。                                 |

|     |   |
|-----|---|
| 留意点 | 実習後の振り返りで、具体的なエビデンスとして活用させる。動物看護業務における記録という意味も含むことを認識させる。 |
|-----|---|

- ▶ 〈4.11 ポートフォリオ〉は、3.3(4) / 31、32ページを参照してください。

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.12 学生個人表   |
| ツールの概要説明   | 実習先に対して、実習学生の個人情報を必要な範囲で提示し、実習生の理解を求める。  |
| ツールの構成及び内容 | 実習生写真、学校名、学科名、学年、氏名（ふりがな）、生年月日、現住所、通学経路、電話番号、取得資格、長所・自己PR、就職希望先の診療体制、志望動機などを示す。        |
| プレイヤーのかかわり | 動物病院・専修学校・学生   |
| 利用方法       | 使用タイミング：「動物看護総合実習申込書」の送付時に添付する。<br>使用方法：実習学生が記入し、実習先に送付する。<br>利用方法：「動物看護総合実習申込書」に添付する。 |
| 留意点        | 実習先は学生個人情報を動物看護総合実習に関わることに以外には一切利用しない。保管管理には十分に注意する。また、実習に関係しない学生の情報は、提示しないように気をつける。   |

- ▶ 〈4.12 学生個人表〉は、3.3(2) / 27、28ページを参照してください。

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.15 動物看護総合実習自己評価シート   |
| ツールの概要説明   | 理解型・体験型・実務型で評価する。評価要素はNQF (National Qualifications Framework) から引用する。  |
| ツールの構成及び内容 | 「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能（専門実践技能）（対人技能）（分析技能）（管理・指導技能）」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」。それぞれの評価要素を4段階（4：非常に良い、3：良い、2：おおむね良い、1：かなりの努力が必要）で評価する。各評価基準も学生が判断しやすいような表現とする。 |
| プレイヤーのかかわり | 学生・教員  |
| 利用方法       | 学生は自己評価することで実習の振り返りを行い、課題を見出す。教員は、学生が自発的に課題を見いだせるように指導する。  |
| 留意点        | 基本的に学生の評価を尊重し、今後の成長に繋げることができるように指導する。  |

- ▶ 〈4.15 動物看護総合実習自己評価シート〉は3. 3. (4) / 33、34ページを参照してください。

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.13 ① 動物看護総合実習手引き (学生)  |
| ツールの概要説明   | 動物看護総合実習各段階の実習目標を意識し、学生が実習に臨む際の諸心得や注意事項をしっかりと理解できるように実習における重要事項を示す。  |
| ツールの構成及び内容 | 実習の目的・目標、履修時間と実習計画、実習前に達成すべき課題、実習のための準備、実習の心得(留意点・観察・記録・報告・服装身だしなみ)、守秘義務・ハラスメント、態度・言葉遣い、勤務時間(出勤時間)、健康管理、実習の修了・実習後の振り返りを示す。 |
| プレーヤーのかかわり | 学校：専修学校の教員は事前学習において、学生に理解できるように指導する。   |
| 利用方法       | 使用タイミング：実習前オリエンテーション時、実習後振り返り時。<br>使用対象：学生<br>利用方法：学生が実習の意義や心得をしっかりと理解し、動物病院実習が潤滑に且つ学習の効果を得られるように活用する。                     |
| 留意点        | 学生自身が実習中に注目したい着眼点を認定し、今まで学習した内容とつながることを意識させ、自主性を促すような指導が望ましい。事前に「動物看護総合実習手引き・指導要領」を確認し、有効に利用する。                            |

- ▶ 〈4.13① 動物看護総合実習手引き (学生)〉は3. 3. (3) / 29、30ページを参照してください。

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.8 動物看護総合実習誓約書  |
| ツールの概要説明   | 学生の実習時の遵守事項、禁止事項などを明示、確認する。  |
| ツールの構成及び内容 | 実習時の遵守事項、禁止事項と実習学生の記名、押印、住所、及び連絡先。   |
| プレーヤーのかかわり | 学生   |
| 利用方法       | 使用タイミング：実習前までに実習先へ送付する。<br>使用対象：学校・学生<br>利用方法：学校より実習学生へ配布。実習学生の記名、押印の上、学校へ提出し、学校で取りまとめた誓約書を実習先へ送付する。 |
| 留意点        | 個人情報を含む書類の為、管理・保管には十分に注意する。  |

- ▶ 〈4.8 動物看護総合実習誓約書〉は3. 3. (5) / 20ページを参照してください。

## (6) 学生の評価

各実習の結果得られた評価をもとに、「動物看護総合実習」として科目評価を行うが、理解型・体験型・実務型と実施時期や実施内容が専修学校により様々であることが予想されるため、科目評価として統合されたものでなくても構わない。

例：「動物看護総合実習Ⅰ」：1年前期

「動物看護総合実習Ⅱ」：1年後期

「動物看護総合実習Ⅲ」：2年前期

### 本項目で利用する教育支援ツール

- ポートフォリオ・・・ゴールシートの作成及び実習の活動記録収集。
- 動物看護総合実習項目チェックリスト・・・実習活動について記録を行う。
- 動物看護総合実習自己評価シート・・・実習の振り返りを兼ねて自己評価を行う
- 動物看護総合実習評価表・・・実習生の評価を行う。
- 動物看護総合実習学習成果指標【体験型・実務型】・・・評価基準。

| ツール名       | 4.11 ポートフォリオ   |
|------------|--|
| ツールの概要説明   | 学習歴やスキル、実績と実証するためのツールであり、インプットした成果を相手に伝えるために目的に沿って収集し、ファイリングする。作成したものを振り返ることで、今後の取り組みに活用する。  |
| ツールの構成及び内容 | 目的、目標を設定し、自身がどうなりたいか、そうなるためにどのようなスキルを習得したいのかを明確にする。そのうえで、達成できる(しやすい)具体的な計画をたてる。日々の実習内容を記入し、実習中のエビデンスやエピソードを収集、記録する(個人の技能・思考・成果などの根拠を蓄積する)。 |
| プレイヤーのかかわり | 専修学校:学生の目的・目標設定や具体的な計画をたてるにあたり指導する。<br>学生:自身の目標を明確にし、日々振り返りと共に作成する。<br>動物病院:毎日実習記録を確認し評価表記入時の参考とする。  |
| 利用方法       | 使用タイミング:実習前オリエンテーション、実習中、実習後に使用する。<br>使用対象:専修学校、学生、動物病院。<br>利用方法:実習での課題を見つけ、その課題への取り組みプロセスを理解させ、実習後の学習へつなげる。                               |
| 留意点        | 実習後の振り返りで、具体的なエビデンスとして活用し、動物看護業務における記録という意味も含むことを認識させる。  |

▶ 〈4.11 ポートフォリオ〉は3.3.(4) / 31、32ページを参照してください。



|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.14 動物看護総合実習項目チェックリスト  |
| ツールの概要説明   | 動物看護総合実習の各段階において、学生が学ぶ動物看護師の役割や機能、及び技術面の習得度を自分自身で評価し課題を見つける。  |
| ツールの構成及び内容 | 項目（環境、食事、排泄、活動・休息、身体の清潔、呼吸・循環を整える、創傷管理、投薬の技術、症状・生体機能管理、感染予防、安全管理、動物医療コミュニケーション、手術前後の看護等）これらの実習項目について、理解型・体験型・実務型ごとにA・B・C段階で自己評価を行う。 |
| プレイヤーのかかわり | 学生：各段階の実習で学生が記入する → 実習中に実習先（動物病院）が確認してもよい。<br>学校：実習後、教員と学生とが共有し実習内容を確認する。   |
| 利用方法       | 学生が動物看護総合実習の各段階で毎日記入し、自身の学習理解を深めるために使用する。   |
| 留意点        | 学生自らが記録することで実習内容を振り返り、自己の課題点や改善点を見出すことが重要であることを認識させる。   |

▶ 〈4.14 動物看護総合実習項目チェックリスト〉は3.3.(4) / 33ページを参照してください。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.15 動物看護総合実習自己評価シート  |
| ツールの概要説明   | 理解型・体験型・実務型で評価する。評価要素はNQF (National Qualifications Framework) から引用する。   |
| ツールの構成及び内容 | 「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能（専門実践技能）（対人技能）（分析技能）（管理・指導技能）」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」。それぞれの評価要素を4段階（4：非常に良い、3：良い、2：おおむね良い、1：かなりの努力が必要）で評価する。各評価基準も学生が判断しやすい表現とする。 |
| プレイヤーのかかわり | 学生・教員   |
| 利用方法       | 学生は自己評価することで実習の振り返りを行い、課題を見出す。教員は、学生が自発的に課題を見いだせるように指導する。   |
| 留意点        | 基本的に学生の評価を尊重し、今後の成長に繋がられるように指導する。   |

▶ 〈4.15 動物看護総合実習自己評価シート〉は3.3.(4) / 34ページを参照してください。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.16 動物看護総合実習科目評価シート  |
| ツールの概要説明   | 動物看護総合実習の評価を行う。評価要素は、NQF (National Qualifications Framework) から引用する。                |
| ツールの構成及び内容 | 「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能(専門実践技能)(対人技能)(分析技能)(管理・指導技能)」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」を示す。         |
| プレイヤーのかかわり | 動物病院・教員   |
| 利用方法       | 動物病院:「職務上の技能(専門実践技能)(対人技能)(分析技能)(管理・指導技能)」<br>教員:「知識と理解」「汎用的な技能」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」 |
| 留意点        | 基本的に学生には評価のフィードバックは行わない。学生にフィードバックする場合は、動物病院の承諾を取る。                                 |

▶ <4.16 動物看護総合実習科目評価シート>は3.2/15、16ページを参照してください。

|            |   |
|------------|---|
| ツール名       | 4.17 動物看護総合実習学習成果指標   |
| ツールの概要説明   | 動物看護総合実習の評価を行う際の評価基準の根拠を明確にするために作成したツール。学習成果指標に準拠した学習ユニット(動物看護総合実習)と、そこで養成されるコンピテンシーを定義し、4段階評価を行うための指標となる。  |
| ツールの構成及び内容 | 評価項目要素は、NQF (National Qualifications Framework) の資格枠組みのレベル定義を活用し、「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能(専門実践技能)(対人技能)(分析技能)(リーダーシップ・管理技能)」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」となっており、動物看護総合実習の実習目標に対し、4段階で評価を行う際の具体的指標を設定している。   |
| プレイヤーのかかわり | 専修学校:<br>1. 動物病院に対して実習を依頼する際に提案書を活用し評価基準に対し説明を行い、学習成果の指標であることを理解させる。<br>2. 学習成果指標を通じて学生がどのように評価されるのか理解させる。<br>3. 評価を行う際に評価指標として活用する。<br>学生(実習生):<br>1. 学習成果指標を通じてどのように評価されるのかを理解する。<br>2. 実習後の自己評価を行う際に活用する。<br>動物病院:<br>1. 実習前に評価基準の説明を受け、学習成果の指標であることを理解する。 |

|      |   |
|------|---|
|      | 2. 実習後の「職務上の技能」評価を行う際の、評価基準として活用する。   |
| 利用方法 | 動物病院：「職務上の技能（専門実践技能）（対人技能）（分析技能）（管理・指導技能）」<br>専修学校：「知識と理解」「汎用的な技能」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」 |
| 留意点  | 評価基準に関しては、学校ごとのレベルに合わせて設定を変えることも可能である。  |

➡ 4.17 動物看護総合実習学習成果指標【体験型・実務型】から一部抜粋。

動物看護総合実習学習成果指標【体験型・実務型】

| 評価要素項目   |                                     | 実習目標   | 4  |
|----------|-------------------------------------|--|--|
| 知識と理解    | 実習に必要とされる科目や学科に対してかなりの知識を持っている。     | 履修科目学習内容を把握したうえで、動物病院の概要理解や動物看護師の業務内容について体系的に理解を深め、履修科目との関連付けを行う事ができる。 | 動物病院の概況、動物看護師の職務内容を十分に理解しており、履修科目との関連付けも妥当であり、関連する専門分野の学修に対して顕著な姿勢がみられる。 |
| 汎用的技能    | 与えられた実習内容に対してスキルを活用しながら対応できている。     | 履修科目の修得状況を振り返りながら、自己分析を行い、具体的な行動計画を立案し、実践、記録、評価、発表を行う事ができる。            | 履修科目の修得状況が良好であり、自己分析、目標設定、計画立案、記録、評価まで論理的に整理されておりプレゼンテーションも良好である。        |
| 職務上の技能   | 専門実践技能                              | 実習指導者監督のもとで、課題への取組を解決するための適切な手法やツールを利用する事ができる。                         | 動物病院における業務内容・職員間の連携や業務内容を理解し、果たすべき役割を遂行する事ができる。                          |
|          | 対人技能                                | 職員、飼い主に対して口頭或いは文書で情報、問題、解決策を効果的かつ明確に伝える事ができている。                        | 学習者としてもチーム動物医療の一員として、態度・言動が適切であり、動物看護師として相手の状況や立場に合わせた、表情や態度で接する事ができる。   |
|          | 分析技能                                | 仕事や学習に関するデータを解析し活用する能力が備わっている。   | 実習目的・目標の設定に沿い立案された実習計画を検証するための記録（ポートフォリオ）を活用し振り返りを行う。                    |
|          | リーダーシップ・管理技能                        | 様々な状況の中で行われる業務・学習の中で、助言や指導を受けながら、責任と自主性を持って行動できる。                      | 実習中に提示される助言や指導を受ける中で、積極的な姿勢を示しながら実習に取り組む。                                |
| 自律性と責任感  | 社会的な接続性を意識し、専門的活動や社会活動に関心を示し、活動できる。 | 将来の目指すべき職業観を明確に持ち、どのように自己研鑽に取り組むかを明確にする。                               | 動物看護師として、自己の実践をどのように発展させるのか明確な目標を持って、実習に取り組んでおり、努力を継続している。               |
| 倫理観とプロ意識 | 組織の倫理や職業倫理を理解した、行動がとれる。             | 動物看護の職務に対しての職業倫理と社会的意義を理解する。   | 動物看護の倫理綱領を理解し、実習における目的・目標設定に活用し、社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいる。              |

### 3.4 デュアル教育の評価（See）

- 本節は、デュアル教育の実施内容を評価・改善する段階に関して、最低限度必要な手続き・要素を体系的に整理する。

現在のコアカリキュラムが2年課程を前提としており、プログラムの評価・改善は2年周期で実施することが望ましい。しかしながら現在の専修学校制度の中で、「職業実践専門課程」では、毎年複数回にわたり教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などを開催し、教育課程編成や自己点検評価に基づく外部評価を受ける体制となっていることから、このプログラムについても、議題として評価・改善策を議論することが可能である。

#### (1) プログラムの評価方法

実習が修了した時点で動物病院に対してアンケートを実施する。内容はプログラム全体に係る、動物病院側の負担や要改善事項などである。

また、評価や指導面での問題点・課題点を抽出し、実習評価委員会などで議論を行い、最終的には学校関係者評価委員会で第三者からの評価を含めて総合的に評価を行う。

#### (2) プログラムの改善方法

実習評価委員会を経て学校関係者評価委員会にて出てきた意見を参考にしながら教育課程編成委員会で改善案を検討する。

本項目で利用する教育支援ツール

- 動物看護総合実習プログラム評価・改善資料・・・課題点の抽出。

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.18 ① 動物看護総合実習 プログラム評価・改善資料（動物病院）   |
| ツールの概要説明   | 動物看護総合実習の課題点を抽出。   |
| ツールの構成及び内容 | 動物病院名・実習受入指導者情報・実習時期・連携での課題点・実習の課題点・学生の実習に対する姿勢や態度の課題点・評価に関する課題点・フィードバックに関する課題点・課題に対する改善提案を行う。 |
| プレーヤーのかかわり | 動物病院   |
| 利用方法       | 課題点の検出、及び改善提案を受け、プログラムの改善につなげる。  |
| 留意点        |  |

➤ 〈4.18 ① プログラム評価・改善資料（動物病院）〉から一部抜粋。

| 動物病院実習プログラム評価「動物病院」（体験型）（実務型） |           |                 |     |      |     |   |
|-------------------------------|-----------|-----------------|-----|------|-----|---|
| 実習受入人数                        | 1年生       | 人               | 2年生 | 人    | 3年生 | 人 |
| 指導者                           | 認定動物看護師   | 人               | 獣医師 | 人    | その他 | 人 |
|                               | ※その他の詳細   |                 |     |      |     |   |
| 実習時期                          |           |                 |     | 実習日数 | 日間  |   |
| 連携での気づき                       | 申込書       | 不足無し・改善希望（具体的に） |     |      |     |   |
|                               | 協定書       | 不足無し・改善希望（具体的に） |     |      |     |   |
|                               | 誓約書       | 不足無し・改善希望（具体的に） |     |      |     |   |
|                               | 学生とのマッチング | 問題無し・改善希望（具体的に） |     |      |     |   |
|                               | 実習内容の説明   | 不足無し・改善希望（具体的に） |     |      |     |   |
|                               | ポートフォリオ   | 実習受入れに有効であった・不要 |     |      |     |   |

|            |  |
|------------|--|
| ツール名       | 4.18 ② 動物看護総合実習 プログラム評価・改善資料（学生）   |
| ツールの概要説明   | 動物看護総合実習の課題点を抽出する。   |
| ツールの構成及び内容 | 動物病院名・実習受入指導者情報・実習時期・連携での課題点・実習の課題点・学生の実習に対する姿勢や態度の課題点・評価に関する課題点・フィードバックに関する課題点・課題に対する改善提案を示す。 |
| プレーヤーのかかわり | 学生・専修学校  |
| 利用方法       | 課題点の検出、及び改善提案を受け、プログラムの改善につなげる。  |
| 留意点        |  |

➤ 〈4.18 ② プログラム評価・改善資料（学生）〉から一部抜粋。

| 動物病院実習プログラム評価「学生」（体験型）（実務型） |                   |                              |     |      |     |   |
|-----------------------------|-------------------|------------------------------|-----|------|-----|---|
| 学年                          | 1年生               | 人                            | 2年生 | 人    | 3年生 | 人 |
| 実習先数                        |                   | 件                            |     | 件    |     | 件 |
| 実習先指導者（わかる範囲で）              | 認定動物看護師           | 人                            | 獣医師 | 人    | その他 | 人 |
|                             | ※その他の詳細           |                              |     |      |     |   |
| 実習時期                        |                   |                              |     | 実習日数 | 日間  |   |
| 事前学習                        | 手引き               | よく理解できた・理解出来た・わからなかった        |     |      |     |   |
|                             | ポートフォリオ           | よく理解できた・理解出来た・わからなかった        |     |      |     |   |
|                             | 履修履歴チェック          | よく理解できた・理解出来た・わからなかった        |     |      |     |   |
|                             | カリキュラムツリー         | よく理解できた・理解出来た・わからなかった        |     |      |     |   |
| 実習中                         | 実習先の指導            | よく理解できた・理解出来た・わからなかった        |     |      |     |   |
|                             | 自己評価              | 評価しやすかった・評価の判断が難しかった・わからなかった |     |      |     |   |
|                             | ポートフォリオ           | よく書けた・指導を受けて書けた・書くことが難しかった   |     |      |     |   |
|                             | ポートフォリオ記載が難しかったこと |                              |     |      |     |   |

## 4. 教育支援ツール

### 4.1 ツール名：動物看護総合実習 目標・目的一覧表

#### 4.1.1 利用目的

動物看護総合実習の教育課程における目標・目的を学生・実習指導者・教職員に理解させることで学習成果が必要であることを認識する。

#### 4.1.2 構成・内容

「理解型実習」「体験型実習」「実務型実習」それぞれの、実習年次・期間（日数）・時間数・目的・目標を設定する。

#### 4.1.3 利用方法

実習の準備中、実習前、実習中、実習後、それぞれの段階で実習に関わる対象者（教職員：実習計画時、実習指導者：実習依頼時、学生：実習前教育時）に対して説明を行う。

### 4.2 ツール名：カリキュラムツリー

#### 4.2.1 利用目的

「動物看護総合実習」の実施時期と、全学年で修得する授業科目の教育課程編成、及び学修成果を達成するための関連性を示すものとして、教育課程を体系化し学生が学びの目標や全体像を理解できるようにする

#### 4.2.2 構成・内容

コアカリキュラムの教育課程を一覧できるようにし、コアカリキュラム全教科の履修時期と教科間の関係を明示する。

#### 4.2.3 利用方法

年度開始時（教育課程説明時）、又は実習前教育時の履修科目チェック時などに、ツリーを基に教育課程の全体像を把握させ、履修科目と動物看護総合実習の関連性を認識させる。

### 4.3 ツール名：動物看護総合実習 学習工程チャート図

#### 4.3.1 利用目的

動物看護総合実習の学習工程を理解する。  
各実習段階で活用するツールを理解する。

#### 4.3.2 構成・内容

実習前の教育から実習中、実習後教育までの流れと学生の学習工程、各段階で使用する教育支援ツールを記載（実習前教育～実習オリエンテーション～動物病院実習～実習後教育）する。

#### 4.3.3 利用方法

動物病院に対する実習提案時の説明時に使用。  
実習前教育の段階で、教育課程を理解させる際に使用する。

#### 4.4 ツール名：動物看護総合実習提案書

##### 4.4.1 利用目的

実習先（動物病院）に対して、実習の目的と役割分担の理解を図る。

##### 4.4.2 構成・内容

デュアル教育の目的。

実習の目的・目標など全体像を説明（実習目的・目標一覧表、学習工程チャート図、実習評価等）する。

動物病院における院内オリエンテーション（参考資料）。

##### 4.4.3 利用方法

実習先の開拓時や、実習受入先動物病院への実習内容を説明する際に活用する。

#### 4.5 ツール名：動物看護総合実習申込書

##### 4.5.1 利用目的

実習実施候補先に対して、実習の可否の確認、及び実習先における実習内容を確認する。

##### 4.5.2 構成・内容

実習の可否の確認、及び実習先における実習内容を確認する。

受け入れ人数、実習期間、実習時間を提示する。

##### 4.5.3 利用方法

実習前までに学生の実習受入れを希望する動物病院に提出する。

事前に作成した「動物看護総合実習申込書」を実習先へ送付する。

2部作成（コピー可）し、原本を実習先へ提出。控えを学校で保管する。

#### 4.6 ツール名：動物看護総合実習承諾書

##### 4.6.1 利用目的

実習先からの実習受入の承諾確認。

##### 4.6.2 構成・内容

承諾のための同意事項を示す。

企業記入欄（企業名、代表者、所在地、TEL、FAX）

記載事項 <実習指導者による指導を行う>

<指導者は実習記録の確認と評価を行う>

<実習時期内容は申込書に基づく>

<動物病院名>

<動物病院住所>

<承諾者名（動物病院代表者）>

<承諾日時>

<連絡先>

#### 4.6.3 利用方法

「動物看護総合実習申込書」に同封して送付する。

実習先動物病院院長、もしくは経営責任者から訪問のうえ受取る。もしくは、実習申込時に同封した返信用封筒にて学校へ返送を依頼する。

### 4.7 ツール名：動物看護総合実習協定書

#### 4.7.1 利用目的

実習における双方の役割の明確化、実習期間内での不測の事態への対処、学生を含めた双方の禁止事項の確認などをお互いに文書にて確認し締結する。

#### 4.7.2 構成・内容

動物看護総合実習における動物病院、学校、学生のそれぞれの役割や禁止事項、実習期間、目的、基本的役割、事故責任、機密保持、人権の尊重（ハラスメントの防止）、動物病院での活動の中止、有効期間などを記載する。

#### 4.7.3 利用方法

実習内容の確認ができた時点、実習前までに取り交わし学校・実習先双方にて、組織（企業）名、所在地、代表者名の記入、代表者印の押印をした協定書を2部作成し、双方で保管する。

### 4.8 ツール名：動物看護総合実習誓約書

#### 4.8.1 利用目的

実習学生の実習時における遵守事項、禁止事項などについての確認と誓約を行う。

#### 4.8.2 構成・内容

実習学生の実習時の遵守事項、禁止事項などを明示、確認する。実習先企業名（動物病院名）、実習学生の記名、押印、住所及び連絡先を明記。

#### 4.8.3 利用方法

実習前までに実習先へ送付する（実習学生の記名、押印の上、学校へ提出し、学校で取りまとめた誓約書を実習先へ送付）。

### 4.9 ツール名：カリキュラムマップ・履修歴チェックシート

#### 4.9.1 利用目的

コアカリキュラムの履修歴を事前に学生自身がチェック・確認し、ゴールシートの作成に活用すると同時に受入れ企業・動物病院と履修歴の共有を図る。



#### 4.9.2 構成・内容

コアカリキュラムの一覧表にチェック欄を設定、各教科のキーワードや実施時期（学年、前期・後期）と時間数構成となる。

#### 4.9.3 利用方法

実習前教育の初段階時に履修歴チェックを学生自身が単独でチェックをする。或いは、クラスメイトと話し合いながら確認する。

学生がチェックをした履修歴チェック表は受入れ企業（動物病院）とも共有する。

### 4.10 ツール名：自己分析シート

#### 4.10.1 利用目的

ポートフォリオのゴールシートを完成させるための前提として、学生の自己分析を援助するためのツールである。

#### 4.10.2 構成・内容

動物看護総合実習における総括的な目標をより具体化した学生自身の目標設定に対して理解度の確認ができる構成となっている。

それらを踏まえたうえで、各段階の目的に対しどのような目標をもって実習に臨むのかを確認できる構成となる。

#### 4.10.3 利用方法

実習前教育時の目標設定時に、明確な目標を持たせるために使用する。

### 4.11 ツール名：ポートフォリオ

#### 4.11.1 利用目的

学習履歴やスキル、実績と実証するためのツールであり、インプットした成果を相手に伝えるために目的に沿って収集し、ファイリングする。学生自身で実習の課題を見つけ、その課題への取組プロセスを記録したものを作成し、実習後に振り返りを行うことで、今後の取り組みに活かす。

#### 4.11.2 構成・内容

作成にあたっての留意事項・ゴールシート・計画表・実習記録・エピソードとエビデンスである。

#### 4.11.3 利用方法

目的、目標を設定し、自身がどうなりたいか、そうなるためにどのようにスキルを習得したいのかを明確化し、達成できる(しやすい)具体的な計画をたてる。

日々の実習内容を記入し、実習中のエビデンスやエピソードを収集、記録する（個人の技能・思考・成果などの根拠を蓄積する）。

動物病院：毎日実習記録を確認し評価シート記入時の参考とする。

#### 4.12 ツール名：学生個人表

##### 4.12.1 利用目的

実習先に対して、実習学生の個人情報が必要な範囲で提示する。

##### 4.12.2 構成・内容

実習生写真、学校名、学科名、学年、氏名（ふりがな）、生年月日、現住所、通学経路、電話番号、取得資格、長所・自己PR、就職希望先の特徴、診療体制、志望動機等。

##### 4.12.3 利用方法

「動物看護総合実習申込書」送付時に添付する。

#### 4.13 ① ツール名：動物看護総合実習手引き（学生）

##### 4.13 ①.1 利用目的

学生が実習に臨む際の諸心得や注意をしっかりと理解させる。

##### 4.13 ①.2 構成・内容

実習の目的目標、履修時間と実習計画、実習前に達成すべき課題、実習のための準備、実習の心得（留意点・観察・記録・報告・服装身だしなみ）、守秘義務・ハラスメント、態度・言葉遣い、勤務時間（出勤時間）、健康管理、実習の修了後の振り返りを示す。

\* 実習の目的

\* 実習の目標

\* 履修時間と実習計画

\* 実習前に達成すべき課題

\* 実習のための準備

\* 実習の心得（留意点・観察・記録・報告・服装身だしなみ）

\* 守秘義務・ハラスメント

\* 態度・言葉遣い

\* 勤務時間（出勤時間）

\* 健康管理

\* 実習の修了

\* 実習後の振り返り

##### 4.13 ①.3 利用方法

使用対象：学生

利用方法：学生・動物病院実習が潤滑に且つ学習の効果を得られるよう、実習の意義や心得をしっかりと理解させる。

使用タイミング：実習前オリエンテーション時、実習中、実習後振り返り時。

#### 4.1.3 ② ツール名：動物看護総合実習手引き・指導要領

##### 4.1.3 ②.1 利用目的

教員指導者の指導ツール。学生の指導に利用する。

##### 4.1.3 ②.2 構成・内容

内容は4.1.3①と同じ。特に大切な指導ポイント、観点を記載する。

##### 4.1.3 ②.3 利用方法

使用対象：学校教員

利用方法：学校教員・事前学習において、学生自身が実習中に注目したい着眼点を認定し、これまでの学習した内容とつながることを意識させ、自主性を促すよう指導する。また、学生の不安や心配を取り除き、主体的に取り組めるよう指導を行う。

使用タイミング：実習前のオリエンテーション時。

#### 4.1.4 ツール名：動物看護総合実習項目チェックリスト

##### 4.1.4.1 利用目的

動物看護総合実習の各段階において、学生が学ぶ動物看護師の役割や機能、及び技術面の習得度を自身で評価し課題を見つける。

##### 4.1.4.2 構成・内容

環境、食事、排泄、活動・休息、身体の清潔、呼吸・循環を整える、創傷管理、投薬の技術、症状・生体機能管理、感染予防、安全管理、動物医療コミュニケーション、手術前後の看護などの実習項目について、理解型・体験型・実務型ごとにA・B・C段階で自己評価が可能な構成。

##### 4.1.4.3 利用方法

学生が動物看護総合実習の各段階で毎日記入し、自身の学習理解を深めるために使用する。学生自身で記録することにより実習内容を振り返り、自己の課題点や改善点を見出すことが重要であることを認識させる。

学生：各段階の実習で学生が記入する。なお、実習中に実習先（動物病院）が確認してもよい。

学校：実習後、教員と学生とが共有し実習内容を確認する。

#### 4.1.5 ツール名：動物看護総合実習自己評価シート

##### 4.1.5.1 利用目的

理解型・体験型・実務型で適正な評価が行えるようにする。評価要素はNQF（National Qualifications Framework）から引用する。

##### 4.1.5.2 構成・内容

「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能（専門実践技能）（対人技能）（分析技能）（管理・指導技能）」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」。それぞれの評価要素を4段階（4：非常に良い、3：良い、2：お

おむね良い、1：かなりの努力が必要)で評価する。各評価基準も学生が判断しやすいような表現とする。

#### 4.15.3 利用方法

学生は自己評価することで実習の振り返りを行い、課題を見出す。教員は、学生が自発的に課題を見いだせるように指導する。基本的に学生の評価を尊重し、今後の成長に繋がられるように指導する。

### 4.16 ツール名：動物看護総合実習科目評価シート

#### 4.16.1 利用目的

動物看護総合実習における評価を行なう。評価要素は、NQF (National Qualifications Framework) から引用する。

#### 4.16.2 構成・内容

「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能（専門実践技能）（対人技能）（分析技能）（管理・指導技能）」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」を示す。

#### 4.16.3 利用方法

動物病院：体験型実習・実務型実習

「職務上の技能（専門実践技能）（対人技能）（分析技能）（管理・指導技能）」

教員：理解型実習・体験型実習・実務型実習

「知識と理解」「汎用的な技能」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」基本的に学生には評価のフィードバックは行わない。学生にフィードバックする場合は、動物病院の承諾を取る。

### 4.17 ツール名：動物看護総合実習学習成果指標【体験型・実務型】

#### 4.17.1 利用目的

動物看護総合実習の評価を行う際の評価基準の根拠を明確にするために作成され、学習成果指標に準拠した学習ユニット（動物看護総合実習）と、そこで養成されるコンピテンシーを定義し、4段階評価を行うための指標とする。

#### 4.17.2 構成・内容

評価項目要素は、NQF (National Qualifications Framework) の資格枠組みのレベル定義を活用し、「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能（専門実践技能、対人技能、分析技能、リーダーシップ・管理技能）」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」に区分している。動物看護総合実習の実習目標に対し、4段階で評価を行う際の具体的指標を設定する。

#### 4.17.3 利用方法

専修学校：

1. 動物病院に対して、実習を依頼する際に提案書を活用し、評価基準に対し説明を行い、学習成果の指標であることを理解させる。
2. 学習成果指標を通じて学生がどのように評価されるのか理解させる。
3. 評価を行う際に評価指標として活用する。

学生（実習生）：

1. 学習成果指標を通じてどのように評価されるのか理解する。
2. 実習後の自己評価を行う際に活用する。

動物病院：

1. 実習前に評価基準の説明を受け、学習成果の指標であることを理解する。
2. 実習後の「職務上の技能」評価を行う際、評価基準として活用する。

動物病院：「職務上の技能（専門実践技能）（対人技能）（分析技能）（管理・指導技能）」

専修学校：「知識と理解」「汎用的な技能」「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」

評価基準に関しては、各学校のレベルや運用に合わせて設定を変えることも可能である。

#### 4.18 ① ツール名：動物看護総合実習プログラム評価・改善資料（動物病院）

##### 4.18①.1 利用目的

体験型実習・実務型実習の課題点を収集する。

##### 4.18①.2 構成・内容

動物病院名・実習受入指導者情報・実習時期・連携での課題点・実習の課題点・学生の実習に対する姿勢や態度の課題点・評価に関する課題点・フィードバックに関する課題点・課題について検証し、その課題に対する改善提案を行う。

##### 4.18①.3 利用方法

課題点の検出、及び改善提案を受け、プログラムの改善につなげる。

#### 4.18 ② ツール名：動物看護総合実習プログラム評価・改善資料（学生）

##### 4.18②.1 利用目的

体験型実習・実務型実習の課題点を収集する。

##### 4.18②.2 構成・内容

動物病院名・実習受入指導者情報・実習時期・連携での課題点・実習の課題点・学生の実習に対する姿勢や態度の課題点・評価に関する課題点・フィードバックに関する課題点・課題に対する改善提案を示す。

##### 4.18②.3 利用方法

課題点の検出、及び改善提案を受け、プログラムの改善につなげる。

## 5. その他の留意事項

本事業では、現在実施されている認定動物看護師養成のための、一般財団法人動物看護師統一認定機構が推奨しているコアカリキュラムで示されている、動物病院や企業内での実習「動物看護総合実習」を対象としたガイドラインの作成に取り組んだ。その理由として、現在行われている実習が、実施時期や基礎科目との連携、学内の実習との接続性などが明確になっておらず、また動物病院実習における目的・学習成果・評価についても曖昧であるという課題が存在した。その課題を解決するため、現状のインターンシップといわれる職業体験プログラムから、教育課程の一部として学習成果を求める“実習ガイドライン”というコンセプトに立ち、作成されたものである。

今後の愛玩動物に対する医療の高度化と、チームで行う動物病院業務への貢献という観点から、さらなる実践的な能力の向上とその能力の標準化を図る事が、動物看護師養成教育に期待される。2019年6月に動物看護師の役割の拡大、質の向上、業務の適正化を図ることを目的に制定された「愛玩動物看護師法」においても、この教育効果を目的に作成された動物病院実習ガイドラインが、動物看護師の国家資格化の目的に則して活用され、同時に、本事業の成果がその一助となれば幸いである。

多くの国家試験では、その実践能力を高めるために、企業との連携による企業実習は、教育課程プログラムに組み込まれている。さらには受験要件としても設定され、知識や技能を実践の場で修練する場として位置づけられており、その際には、本事業でのガイドラインの活用可能な範囲であると推察される。

しかし、実際にガイドラインを活用した実習の実施を想定した場合、本事業では取り組むことができない課題点があったことも事実である。以下に今後の課題を記載する。

### 本ガイドライン活用の課題と対策（国家資格カリキュラムにおける活用を含む）

#### 1.（課題）専修学校教員の資格要件と研修システム。

（対策）教員資格要件は愛玩動物看護師法における指定要件にて提示されることが見込まれている。動物病院（臨地）実習での指導者に対しても、要件がいつ提示されるか現時点では未定であるが、研修として専門学校教員と実習先指導者との指導方法、相互理解も含め合同で実施することが望ましいと考える。（一社）日本動物看護職協会に協力を得ること、また職業実践専門課程の企業連携実習の発展版として研修システムを今後、検討・開発していくことも必要である。なお、毎年実施している本事業受託代表の（一社）全国動物教育協会と（一社）全国動物専門学校協会の共催による、夏季動物看護教員研修に実習指導者となる現職の動物看護師も参加できるよう、今後検討する。

#### 2.（課題）動物病院における実習指導者要件と研修システム。

（対策）1. の対策で示したように指導方法をはじめ動物病院業務の現況など相互理解の必要性があると考えられることから、相互に学び合う研修システムを検討・開発することが必要である。指導方法については、指導要領の改訂などで学習方法が時代によって変化することがあり、一辺倒な指導では学生の学習成果を

生み出せないこともあることから、専門学校教育の変化を実習先指導者も共有することが必要と思われる。一方、愛玩動物に対する医療も一層進化していくことが予測されるため、動物病院で求められる業務・技能・役割を教員と共有することが必要である。また、人権教育の指導方法も改善が進んでいることから、教育（指導）に携わる者へその指導方法も研修として取り上げることが望ましい。

3. (課題) 今後指定される国家資格カリキュラムとコアカリキュラムの整合性。  
(対策) コアカリキュラムのレベルと質は一定の評価を得ていると思われる。但し、愛玩動物看護師法で新たに示された対象の動物は愛玩動物に限られていること、獣医療の一部を担うことになること、動物の適正飼養に寄与することなどが、愛玩動物看護師として必要な知識と技能であることから、コアカリキュラムは基として踏まえていただきたいが、更なる教育の質の向上と確実な技術の修得を目指した国家資格カリキュラムが提示され、これに先導されていくことは必至と考える。
4. (課題) 実習指導料と知的財産権。  
(対策) 臨地実習の指定要件次第であるが実習時間数や学習成果の求められるレベルによっては、受け入れ側の負担や指導責任も生じることが考えられる。その場合には指導料の発生は必要となることが考えられる。また知的財産権としてどのようなことが生じるかは不明であるが、実習における研究と開発により知的財産と思われる成果が生じた際の権利をどのようにするか、他分野の事例なども参考に検討しておく必要があると思われる。
5. (課題) 実習体制に関する企業（業界）連携のシステム化。  
(対策) 現在行われている個々の動物病院との連携は、引き続き行われていくと考えられるが、就職希望先として選定していたインターン実習のための動物病院選定とは異なり、学習の成果を生み出す実習先として動物病院に依頼するようになる。条件や環境の異なる各動物病院において、学生が均一な内容・レベルで実習を受けることができるようにするためには、動物病院の指導者・スタッフも成長できるよう研鑽することが望まれる。  
上記を鑑み、既に展開している（公社）千葉県獣医師会と専修学校との連携システムや、本事業で実証した（公社）東京都獣医師会と専修学校との連携システムをモデルケースとして動物病院が所属する各都道府県・政令指定都市の獣医師会、及び動物病院の協会・団体などと専修学校との組織的な連携システムを構築し普及できるように努めたい。
6. (課題) 学生全員が実習に臨む際の指導。  
(対策) 実証において各校教員から「事業で実証した事前教育・事後教育は少数の学生であったため、十分な指導が可能であったが、全学生となると時間が不足することが予測される」という感想があった。そのため一案として、動物看護総合実習の時間数90～180時間を、全て動物病院で行う実習に充てるのではなく、コアカリキュラムの授業時間内に組み込む、もしくは他教科と連携して事前学習、及び事後学習を行うことを提案する。

## 6. 【参考】本ガイドラインの作成プロセス

本事業におけるガイドラインの作成プロセスを以下に示す。

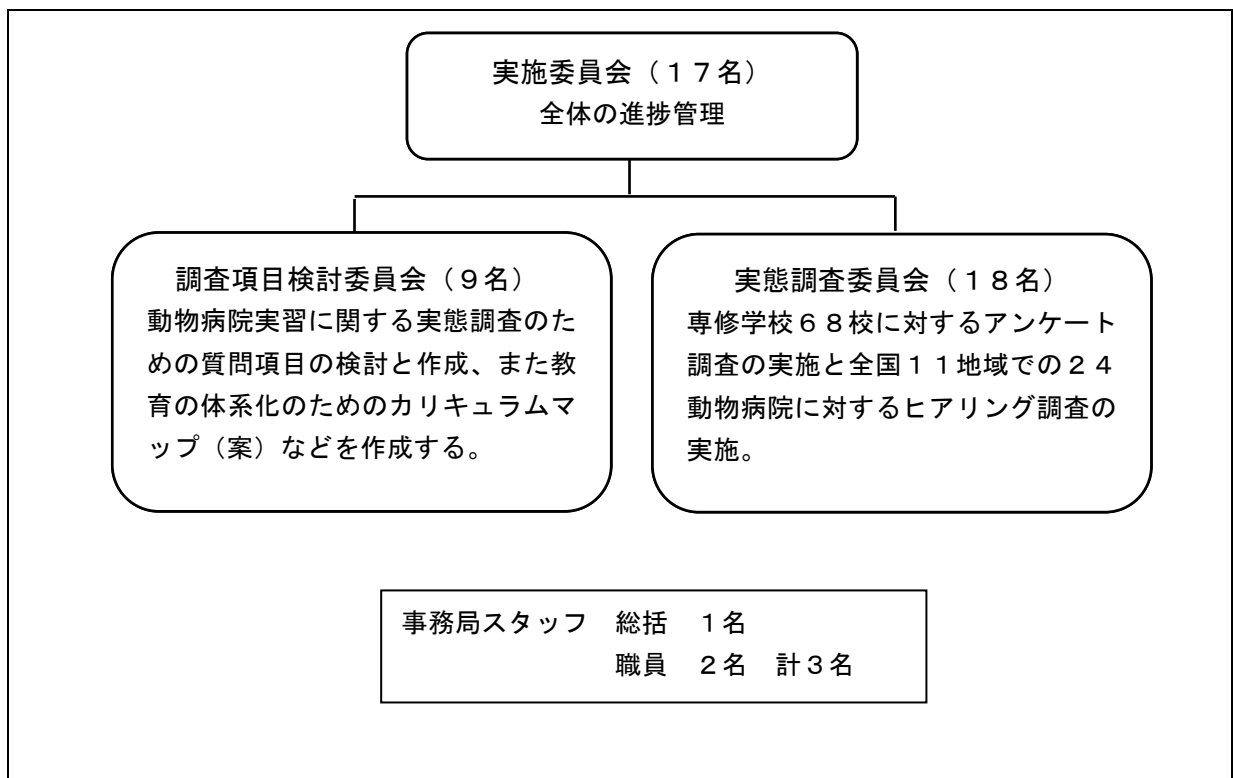
事業年度ごとに、ガイドラインの作成に向けて委員会を組織し、目的と役割、主な協議事項とその内容、実施した調査結果について記述した。

### 6.1 【平成29年／2017年度】

#### 6.1.1 平成29年／2017年度の事業目標と委員会の構成

- ① 認定動物看護師統一試験受験認定校である専修学校（68校）で既に実施されている動物病院実習の実態を調査（アンケート方式）し、実習内容、及び前後の学習との継続性・目的の位置づけを確認した。
- ② 学生の実習受入先である動物病院に対するアンケート、及びヒアリング調査を、全国11地域（札幌、新潟、埼玉、東京、千葉、静岡、京都、大阪、愛媛、広島、九州）で行い、受け入れ側の意向や状況を確認した。
- ③ 動物病院実習の教育の体系化を図るために、「動物病院実習」調査の結果を参照に、認定動物看護師養成コアカリキュラムに対する「カリキュラムマップ（案）」を作成し、次年度事業の中核である「動物病院実習ガイドライン」作成時の学習目標や学習成果などの検証を行った。

○ 上記の事業目標を達成するため以下の委員会を構成し事業を推進した。





○ スケジュール

|  | 8月 | 9月                                       | 10月  | 11月                                   | 12月                        | 1月                                    | 2月             |
|--|----|--|--|---------------------------------------|----------------------------|---------------------------------------|----------------|
| 実施委員会<br>17名                             |    |  | 10月13日<br>事業説明                                       |                                       |                            | 1月28日<br>進捗確認                         | 2月28日<br>中間報告会 |
| 調査項目検討委員会<br>9名                          |    | 9月15日<br>今年度事業目標の<br>確認と事業の活用<br>についての検討 | 10月6日、19日<br>動物病院実習の<br>実態調査項目及び<br>ヒアリング調査項目<br>の検討 |                                       | 12月27日<br>実態調査の結果<br>確認～分析 | 1月26日<br>ガイドライン作成<br>に必要な情報の<br>整理と検討 | 2月8日<br>まとめ    |
| 実態調査委員会<br>18名                           |    |  | 10月30日<br>11月6日<br>実態調査の内容確認、<br>及び意見のすり合わせ          |                                       |                            | 1月8日、16日<br>実態調査の振り返り、<br>意見交換        |                |
| 専門学校実態調査<br>対象 専門学校68校                   |    |  | 10月～11月<br>総合臨床実習に関する<br>実態調査アンケートの<br>実施            |                                       |                            |                                       |                |
| 動物病院実態調査<br>専門学校12校/11地域から<br>24の動物病院を選出 |    |  |  | 11月～12月<br>調査票の回収と<br>現地でのヒアリング<br>実施 |                            |                                       |                |

【実施委員会】 3回

10月13日（金）、1月28日（金）、2月28日（水）

【調査項目検討委員会】 6回

9月15日（金）、10月6日（金）、10月19日（金）、  
12月27日（木）、1月26日（金）、2月8日（木）

【実態調査委員会】 2回

10月30日（月）、11月6日（月）1月8日（月）、  
2018年30年1月16日（火）

【中間報告会】 1回

2018年2月28日（水）

○ 専修学校を対象にした調査票によるアンケート調査

専修学校68校に対し、メール配信に加え郵送で調査票を送付、回収を依頼した。

回答期間：2017年11月1日～12月21日

対象68校のうち61校から回答を得た（回答率89.7%）。

教育支援ツール（実習依頼書・実習受け入れ承諾書、評価表等）については、様式やフォーマットが多岐にわたっている現状が確認できた。また、実習前後の教育的措置などについても、各校の実習目的により様々な活動が行なわれている現状が確認できた。これらの資料を整理し、次年度に有用と考えられるものを抽出した。以下の内容で調査を行った。

1. 動物病院実習 実施状況について
2. 動物病院実習の目的・内容について

3. 実習を受け入れた動物病院について
4. 実習を受ける動物病院の決定方法について
5. 学生が不安感を持たずに動物病院実習に臨めるような工夫や支援について
6. 実習の事前打ち合わせについて（学校から実習動物病院に対して）
7. 実習の事前打ち合わせについて（実習動物病院から学校に対して）
8. 実習前に行った貴校の学生への教育や指導、準備などについて
9. 実習期間中、実習先の動物病院への巡回について
10. 実習修了後に学校が行った対応や取り組みについて
11. 動物病院実習に関して用意をした書類について
12. 動物病院実習に関するトラブルやクレームについて
13. 実習の実施に関して、学校が有している問題点や課題について
14. 動物病院実習をよりうまく進めていくために現在工夫していることや、その取り組みについて
15. 「動物病院実習ガイドライン」への要望・意見・提案などについて

○ 動物病院を対象にした調査票によるアンケート、及びヒアリング調査

24の動物病院に対し、あらかじめ調査票を送付。その回答に加え、担当者2名（もしくは3名）をヒアリング項目に齟齬がないように配慮し、以下のスケジュールで訪問し、ヒアリング調査を実施した（対象：24の動物病院、期間：11月～12月）。

○ 動物病院へのヒアリング調査 実施スケジュールと担当者

| 日時     | 地域 | 担当専門学校              | 地域担当者  | 担当委員 | 訪問動物病院    |
|--------|----|---------------------|--------|------|-----------|
| 11月24日 | 新潟 | 国際ペットワールド専門学校       | 荒井     | 楠田   | A, B 動物病院 |
| 11月28日 | 札幌 | 愛犬美容看護専門学校          | 中川     | 坂本   | C, D 動物病院 |
| 11月29日 | 大阪 | 大阪ペイ動物看護専門学校        | 青木     | 山下   | E, F 動物病院 |
| 12月1日  | 京都 | YIC京都ペット総合専門学校      | 杉山     | 田上   | G, H 動物病院 |
| 12月4日  | 福山 | 穴吹動物看護専門学校          | 田上     | 西澤   | I, J 動物病院 |
| 12月5日  | 松山 | 河原アイペットワールド専門学校     | 川邊     | 坂本   | K, L 動物病院 |
| 12月11日 | 東京 | 中央動物専門学校            | 坂本     | 下菌   | M 動物病院    |
| 12月14日 | 宮崎 | 宮崎ペットワールド専門学校       | 楠田     | 荒井   | N 動物病院    |
| 12月15日 |    |                     |        |      | O 動物病院    |
| 12月15日 | 浜松 | 専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー | 藤原     | 坂元   | P, Q 動物病院 |
| 12月19日 | 千葉 | 専門学校ちば愛犬動物フラワー学園    | 向山     | 下菌   | R, S 動物病院 |
| 12月19日 | 埼玉 | 大宮国際動物専門学校          | 佐藤     | 中川   | T, U 動物病院 |
| 12月20日 | 東京 | 中央動物専門学校            | 坂本     | 青木   | V 動物病院    |
| 12月23日 | 東京 | 国際動物専門学校            | 西依(大木) | 西澤   | W, U 動物病院 |

## 6.2 【平成30年／2018度】

### 6.2.1 平成30年／2018年度の事業目標と委員会の構成

#### ① 動物病院実習の実態調査

動物病院を対象にインターネットを用いたアンケート調査を実施し、動物病院の実習学生の受け入れ状況、実習内容、指導、評価、専修学校への要望、実習の課題などについて情報を収集、動物病院実習の実態を把握した。

#### ② 専修学校を対象にした動物病院実習案についての調査

3段階に階層化した動物病院実習案／体験型実習、補助型実習、実務型実習を専修学校に提示し、この実施案について実施の可否、意見、疑問点などを収集した（※平成31年度事業より、体験型実習を理解型実習に、補助型実習を体験型実習に名称を変更）。その結果を検証し、動物病院実習案の修正に反映させて、より精度の高い動物病院実習案を作成した。

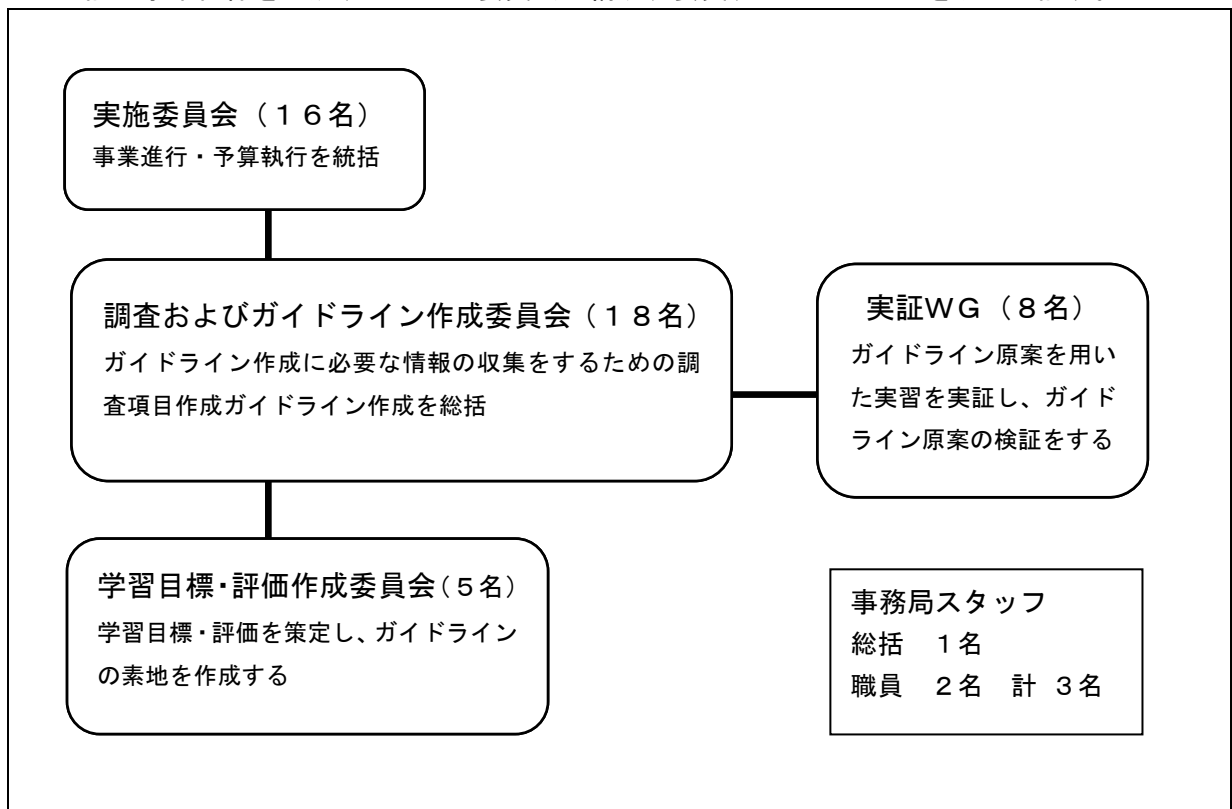
#### ③ 教育支援ツールの検討

動物病院での実習実施に際し、動物病院と取り交わす書類、学生が実習内容を記録し蓄積させる書類、また評価を行うための評価表など実習に関わる教育支援ツールを整備し作成した。

#### ④ 動物病院実習案の実証と検証

本年度は動物病院実習案のうち体験型実習についての実証を4校で行った。教員、学生、動物病院それぞれの実証結果、及び教育支援ツールについても検証を行う。その結果を踏まえ、課題点を確認し、次年度の計画を策定した。

○ 上記の事業目標を達成するための委員会の構成、委員、スケジュールを以下に記す。



## ○ 事業実施スケジュール

|                                  | 7月  | 8月                         | 9月  | 10月                  | 11月                                    | 12月 | 1月                                 | 2月              |
|----------------------------------|---|----------------------------|---|----------------------|--|-----|------------------------------------|-----------------|
| 平成29年度事業                         | ・事業スケジュールの確認<br>・ガイドライン骨子確認<br>・実習案、調査項目の検討 |                            | ・ガイドライン草案の協議～作成<br>・調査結果の分析<br>・教育支援ツールの作成、整備 |                      | ・体験型実習の実証実施<br>・実証結果の検証<br>・教育支援ツールの作成 |     | ・事業成果の検証<br>・課題、問題点の整理<br>・次年度計画策定 |                 |
| 実施委員会<br>16名／3回開催                | ① 7月29日                                     |                            |   | ② 10月29日             |  |     |                                    | ③ 2月4日<br>中間報告会 |
| 調査および<br>ガイドライン作成委員会<br>18名／3回開催 | ① 7月26日                                     |                            |   | ② 10月18日             |  |     | ③ 1月25日                            |                 |
|                                  |   | 専門学校への調査～分析<br>動物病院への調査～分析 |   |                      |  |     |                                    |                 |
| 学習目標・評価作成委員会<br>5名／5回開催          | ① 7月20日                                     | ② 8月20日                    |   | ③ 10月11日<br>④ 10月31日 |  |     |                                    | ⑤ 2月5日          |
| 実証ワーキンググループ<br>8名／2回開催           |   |                            |   |                      | ① 11月29日                               |     | ② 1月17日                            |                 |
|                                  |   |                            |   |                      | 体験型実習の実証～検証<br>(4校／札幌・千葉・東京・大阪)        |     |                                    |                 |

### 【実施委員会】 3回

7月29日（日）、10月29日（月）、2019年2月4日（月）

### 【調査、およびガイドライン作成委員会】

3回

7月26日（木）、10月18日（木）、2019年1月25日（金）

### 【学習目標・評価作成委員会】 5回

7月20日（金）、8月20日（金）、10月11日（木）、

10月31日（水）、2019年2月5日（火）

### 【実証WG】 2回

11月29日（木）、1月17日（木）

### 【中間報告会】 1回

2019年2月4日（月）

## ○ 調査について

### ・専修学校に対する3段階に階層化された動物病院実習案に関する調査

専修学校に対しては、3段階に階層化された動物病院実習案／体験型実習、補助型実習、実務型実習についてそれぞれの実施内容、目的などを専修学校67校へ提示し、その実施案について実施が可能かどうか、導入にはどのような課題があるか、また意見や要望、疑問点などの情報を収集した。調査票の送付時に、今年度の事業目的、スケジュールについても同時に提示し、本事業への協力と理解を図った。

・実施時期 2018年9月1日～9月25日

・アンケート方法 67の専修学校へ依頼書、調査票、関連の書類を郵送。  
インターネットを利用し調査票画面から回答を回収。

・動物病院に対する学生の動物病院実習に関する調査

今回の動物病院実習ガイドラインの作成に関して、動物病院様を対象にしたアンケート調査、及び専修学校を対象にしたアンケート調査を9月初旬から約1ヵ月の期間で回答を回収、集計した。約4,000の動物病院にメールでアンケート調査の協力を依頼し、インターネットを利用して回答を得た。

昨年度の事業では全国24の動物病院で実態調査を実施し、実習の内容、プログラム、指導方法、評価方法、専修学校との打ち合わせ内容、取り交わす書類、要望事項についての実態状況を把握したが、より実用性、汎用性を持たせたガイドラインの作成のため、より多くの動物病院からの情報収集と実態の把握が必須と判断し、今年度も引き続き動物病院への調査を実施した。今回は実習の学生を受け入れている動物病院だけでなく、受け入れている動物病院の情報も合わせて収集した。

・実施時期 2018年9月1日～9月25日

・アンケート方法 約4,000の動物病院へメールでアンケート調査を依頼。  
インターネットを利用し調査票画面から回答を回収。

○ 実証実施について

| 実証校 | 実証時期   | 参加学生(学年) | 事前学習／オリエンテーション |    | 実習時間(日数) | 事後学習 |
|-----|--------|----------|----------------|----|----------|------|
| A校  | 11月下旬～ | 2名(1年)   | 1.5h           |    | 24h(3日)  | 0.5h |
| B校  | 12月中旬～ | 2名(1年)   | 2h             | 2h | 19h(2日)  | 2h   |
| C校  | 12月中旬～ | 2名(1年)   | 2h             | 2h | 16h(2日)  | 3h   |
| D校  | 12月下旬～ | 2名(1年)   | 2h             | 2h | 16h(2日)  | 2h   |

- ・4校で実施。体験型実習の実証内容の確認と報告、意見交換を行った。
- ・結果の検証と支援ツール、及びポートフォリオを確認した。
- ・2月4日の中間報告会での報告内容を協議し纏めた。
- ・今後の実証は参加校、参加学生を増やして行うこととし、初年度事業での12校に依頼、実施した。

※体験型実習は理解型実習に、補助型実習は体験型実習に、2019年度事業で名称を変更。

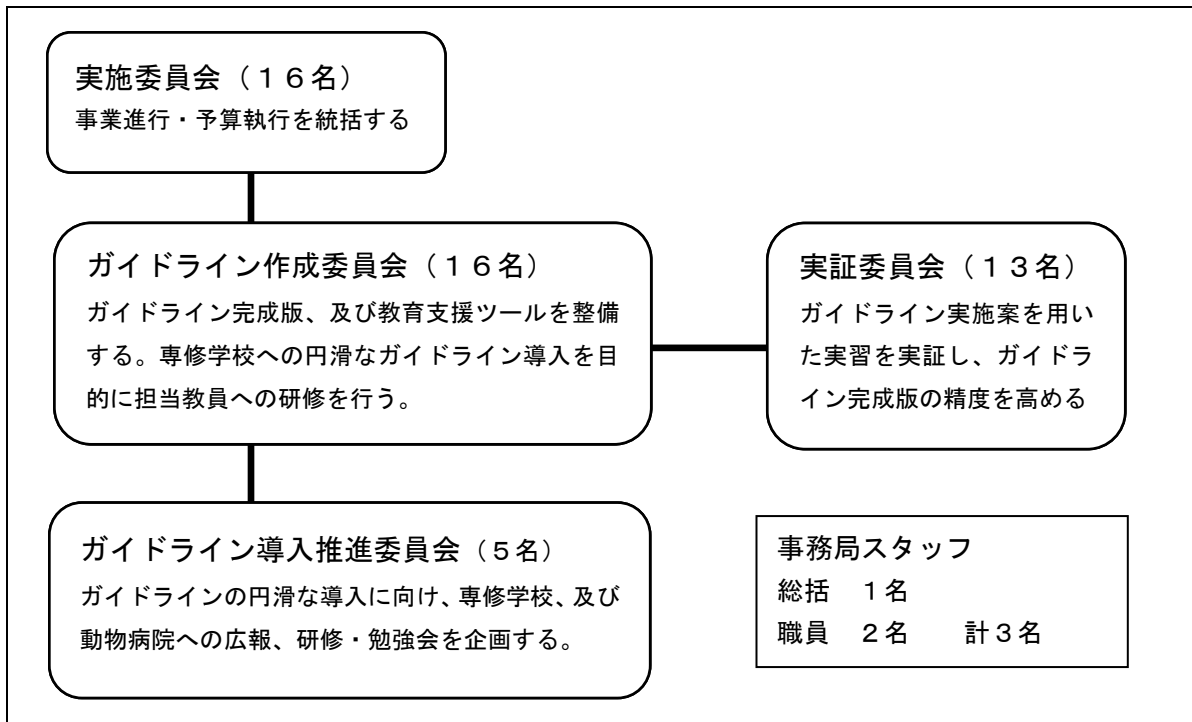
### 6.3 【令和元年／2019年度】

#### 6.3.1 令和元年／2019年度の事業目標と委員会の構成

##### ○ 事業目標

1. 動物病院実習ガイドライン完成版の作成／2018年度の実証結果や成果を活かす。
2. 動物病院実習ガイドラインの実証実施と検証  
2018年度に作成したガイドライン実施案に基づき体験型、補助型、実務型実習を可能な限り、複数の専修学校において実証を行う（7～12月）。  
（※2019年度事業にて、体験型実習を理解型実習に、補助型実習を体験型実習に名称を変更）
3. 専修学校指導担当教員の理解促進  
学習効果を目的にした実習であることや学生が意欲を持って実習に取り組むための事前学習、オリエンテーションの導入、コーチングの手法について説明を行う。
4. 動物病院の動物看護師を対象にした指導者研修の実施  
動物病院での実習学生の指導、評価などを、より適切に実施するための指導者研修の実施。
6. 動物病院実習ガイドライン説明会の開催、普及促進  
（一社）日本動物看護職協会と共同で全国の専修学校を対象に全国7地域程度で説明会を開催。実証の結果、導入、考えられる課題について説明を行い、より多くの専修学校での導入を図る。
7. 成果報告会  
3年間の事業年度として最終報告会を開催：2020年2月18日（火）を予定  
最終成果報告会は専修学校、受け入れ企業でもある動物病院関係者、関係省庁、獣医師会などを対象に開催。

- 上記の事業目標を達成するための委員会の構成、スケジュール、委員を以下に記す。



○ スケジュール

| 2019年                    | 7月   | 8月                       | 9月   | 10月                  | 11月      | 12月                     | 1月                 | 2月               |
|--------------------------|--|--------------------------|--|----------------------|----------|-------------------------|--------------------|------------------|
| 2019年度事業                 | ・事業スケジュールの確認<br>・ガイドライン案で実証実施<br>・教育支援ツールの整備 |                          | ・ガイドライン(暫定版)の提出<br>・課題点の確認<br>・関連団体、組織への情報提供 |                      |          | ・ガイドライン最終版の完成<br>・事業の検証 |                    |                  |
| 実施委員会<br>16名／3回開催        |  | ① 8月26日                  |  |                      |          | ② 12月23日                |                    | ③ 2月18日<br>成果報告会 |
| ガイドライン作成委員会<br>16名／4回開催  |  | ① 8月2日                   |  | ② 10月28日<br>② 10月29日 | ③ 11月18日 |                         | ④ 1月10日<br>④ 1月16日 |                  |
| ガイドライン導入推進委員会<br>5名／6回開催 |  |                          | ① 9月6日                                       | ② 10月3日              | ③ 11月11日 | ④ 12月23日                | ⑤ 1月22日            | ⑥ 2月17日          |
| ガイドライン実習研修会<br>2回開催      |  | ① 8月22日                  |  | ② 10月27日             |          |                         |                    |                  |
| 実証委員会<br>13名／3回開催        |  | ① 8月22日                  |  | ② 10月27日             |          |                         | ③ 1月19日            |                  |
| ガイドライン実習説明会<br>12校       |  | 研修会実施後から実証までの間に各校で開催／12校 |  |                      |          |                         |                    |                  |

【実施委員会】 3回

8月26日（月）、12月23日（月）、2020年2月18日（水）

【ガイドライン作成委員会】 4回

8月2日（金）、10月28日（月）／29日（火）、11月18日（月）  
2020年1月10日（金）／16日（木）

【ガイドライン導入推進委員会】 6回

9月6日（金）、10月3日（金）、11月11日（金）、  
12月23日（月）、2020年1月22日（火）、2月17日（月）

【実証委員会】 3回

8月22日（木）、10月27日（日）、2020年1月19日（日）

【成果報告会】 1回

2020年2月18日（火）

○ 実証実施

2019年7月より10校で実証を実施。各校でそれぞれスケジュールを調整し、可能な範囲で実証を行い、教育支援ツール、運用など点検・整備を行った。

| 2019年度事業 実証実施校      |                  | 理解型実習 |     |       | 体験型実習 |     |       | 実務型実習 |     |       |
|---------------------|------------------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|
|                     |                  | 学生数   | 学年  | 動物病院数 | 学生数   | 学年  | 動物病院数 | 学生数   | 学年  | 動物病院数 |
| 1                   | 宮崎ペットワールド専門学校    |       |     |       |       |     |       | 5     | 2年生 | 5     |
| 2                   | 大阪ペイ動物看護専門学校     |       |     |       | 2     | 2年生 | 1     |       |     |       |
| 3                   | 愛犬美容看護専門学校       | 7     | 1年生 | 18    |       |     |       | 13    | 2年生 |       |
| 4                   | 専門学校ちば愛犬動物フラワー学園 | 5     | 1年生 | 5     |       |     |       |       |     |       |
| 5                   | 中央動物専門学校         |       |     |       |       |     |       |       |     |       |
| 6                   | 穴吹動物専門学校         | 1     | 1年生 | 1     | 1     | 2年生 | 1     |       |     |       |
| 7                   | アイペットワールド専門学校    | 25    | 1年生 | 1     |       |     |       |       |     |       |
| 8                   | 国際ペットワールド専門学校    |       |     |       | 5     | 2年生 | 2     |       |     |       |
| 9                   | 国際動物専門学校         | 79    | 1年生 | 1     |       |     |       | 4     | 3年生 | 2     |
| 10                  | 大宮国際動物専門学校       | 85    | 1年生 | 1     |       |     |       |       |     |       |
| 2019年度事業での実証参加学生の合計 |                  | 202人  |     | 27    | 8人    |     | 4     | 22人   |     | 7     |



